

事業報告書及びその付属明細書

2017年度

自 2017年4月1日 至 2018年3月31日

公益社団法人アジア協会アジア友の会

アジア協会アジア友の会（JAFS）のめざすもの

I. 基本理念（Vision）

文化の多様性を尊重し、誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造をめざし、以って各自の生命（いのち）の価値を高める。

II. 基本課題（Mission）

1. アジア及び世界の開発途上地域の困っている人々を助ける。
（特に、基本的生存条件が確保できない人々への生活支援を最優先する）
2. 国際社会に必要なボランティア活動の育成推進

III. 基本目標（Goal）

アジアの善意を結集して地球社会奉仕活動を推進し、以って人間として各自に与えられた生命（いのち）の役割を果たす。

IV. 基本活動（Program offered）

1. 国際協力支援事業の推進
2. 国際人的ネットワーク網の確立
3. 日本における良き社会づくりの推進

目次

事業報告				1	
Ⅰ. 開発支援事業					
A. 水事業	1. 井戸・飲料水供給			7	
B. 子ども事業	1. 初等教育普及・向上			9	
	2. 教育設備・環境整備			10	
	3. HIV/AIDS 子ども感染予防			11	
	4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援			12	
C. 貧困対策事業	1. マイクロクレジット支援・能力開発			12	
	2. 保健衛生指導・医療	(1) トイレ建設		13	
		(2) 医療支援			
	3. 提携 NGO 運営助成				
D. 環境事業	1. 植林・水源涵養林養育			15	
	2. 環境改善・国際グリーンスカウト				
	3. 再生可能エネルギー資源活用・普及			16	
E. サイクル・エイド事業	1. サイクル・エイド			17	
F. ワークキャンプ・視察	1. ワークキャンプ			19	
	2. 海外プロジェクト視察				
Ⅱ. 国際交流事業					
A. 人材交流・育成事業	1. 奨学金支援			21	
	2. 海外ボランティア研修制度				
B. ネットワーク推進事業	1. 国際会議	(1) アジア国際ネットワークセミナー		22	
		(2) 国際ネットワーク機能強化事業			
		(3) アジア・フレンドシップ夢基金			
		(4) アジア・ユースサミット (A Y S)			
	2. 国際体験交流 (スタディーツアー等)			24	
資料：海外提携団体 AFS ネットワーク				27	
Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業					
A. 災害等罹災者支援事業	1. 災害等罹災者支援事業	(1) 日本 熊本地震		31	
		(2) フィリピン マニラ東方台風			
		(3) ネパール中部地震			
		(4) 日本 東日本大災害			
		(5) スリランカ洪水支援			
Ⅳ. 普及啓発事業					
A. 地域広報活動事業	1. 本部活動	(1) JAFS チャリティープログラム		35	
		(2) 国際理解教育講座			
		(3) 国際ボランティア啓発活動			
		(4) アジア文化理解講座			
		2. 地区活動	(5) 研修生・実習生受入プログラム		36
			(6) 法人関連プログラム		
			(7) 社員クラブ		37
			(8) 関連プログラム／その他団体協力		
	(1) エリア幹事会・地区活動推進委員会		38		
	(2) 地区世話人一覧				
	(3) 第1エリア		39		
	(4) 第2エリア				
	(5) 第3エリア		40		
	(6) 第4エリア				
	(7) 第5エリア		41		
	(8) 第6エリア				
	(9) 第7エリア		42		
	(10) 第8エリア				
	(11) 第9、10エリア		43		
	3. 広報	(1) アジアネット		44	
(2) ホームページ／フェイスブック					
4. プロジェクト支援	各ファミリーグループ・支援会				
5. 関連市民活動	(1) 関西ナショナル・トラスト協会			48	
	(2) グリーンベイ OSAKA				
	(3) 日本を良くする会				
B. 環境保全・環境教育(国際グリーンスカウト運動)	(1) 土と水と緑の学校			53	
	(2) 美山 土と水と緑の自然学校				
	(3) 各部会活動			54	
Ⅴ. 運営管理					
A. 社員総会				55	
B. 役員一覧					
C. 理事会					
D. 常置委員会					
事業報告の付属明細書				58	

2017年度 事業報告

2017年度は、従来の支援事業に加えて、海外ネットワークと国内地域活動の強化に取り組んだ年となった。

公Ⅰ事業(開発支援事業)に関しては従来通り「水」、「子ども」、「貧困対策」、「環境」及び「サイクル・エイド」の5事業に関して各支援事業を実施した。水事業は、農村地域に飲料水のための井戸・パイプラインを完成させ、安全な水の確保を可能とした。子ども事業は、教育里親制度を通じた教育支援や校舎建設支援・学校設備支援、またHIV/AIDS 子ども感染予防、栄養改善及びスラム等の子どもたちの支援については、現地事情によるものを除き、例年通り実施。貧困対策事業は、マイクロクレジット支援・能力開発部門では、インドにおいて職業訓練学校の建設を開始した。保健衛生指導・医療部門では、衛生環境の整備や地域医療状況の改善を行った。環境事業の植林、水源涵養林養育支援は、黒檀、生活林及び果樹の植樹を行い、自然環境の保全に努めた。環境改善に関しては国際緑化推進活動の普及活動を実施し、環境教育を行うことで地域を守る子どもの育成を行った。サイクル・エイドについては例年通りタイとカンボジアに自転車の寄贈を行った。

公Ⅱ事業(国際交流事業)に関しては、アジア国際ネットワークセミナーとアジア・ユースサミットが共に日本で開催され、内外からの多くの参加者の熱心な討議を経て、アクションプランの策定等により、今後の方向付けを行った。

公Ⅲ事業(災害等の罹災者支援事業)は、熊本地震及びネパール中部地震の罹災者に対しては復興・生活支援に引き続き取り組み、またスリランカ水害の子どもの罹災者に対しては学習道具による教育支援を行った。

公Ⅳ事業(普及啓発活動)に関しては、地域広報活動をより一層活発化するために、関西2地域に「アジア友の会」を設立。その他の地域ではその組織づくりの準備(地域活動の新たな人材発掘)に力を入れる年となった。また本会基幹会員である「社員クラブ」を復活させ、正会員の連帯意識の向上を図った。

運営に関しては、各事業に対して理事を中心とした各事業委員会が積極的な活動を行った。ガバナンス・コンプライアンスについても引き続き強化された。

I. 公益目的事業1 開発支援事業

A. 『水事業』 - 安全な飲料水供給を目指した井戸建設支援事業 -

1. 井戸・飲料水供給

2017年度はアジア5ヵ国(インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、フィリピン)の農村地域29ヵ所に飲料水のための井戸及びパイプライン等50基を完成させることができた。安全な飲料水を含む、生活用水を確保することができ、SDGs目標6の達成の一助にもなった。気候変動や災害後の地層変動に伴う水の確保の手段を確立させていくことが今後の課題である。

B. 『子ども事業』 - 貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業 -

1. 初等教育普及・向上事業(インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン)

教育里親制度(教育資金の提供)を通じ、アジア5ヵ国の児童475名の教育支援を行なった。

全体的に就学に対しての意識が向上されつつある現在ではあるが、経済的貧困のために就学を継続できず途中で教育をうけることをやめる子どもたち、また、未だ教育の重要性を理解しない親のもと就学できない子どもたちに対して、人間形成に必要程度の教育(中学及び高等学校教育)の機会と就学継続を目指した支援事業を実施した。

しかし、昨今、経済発展に伴い雇用機会を求めての都市部移住が目立ち、更なる負の連鎖により未就学、就学の遅れ、中途退学が目立ち、農村部以上に子どもたちが犠牲者となっている。このような子どもたちへの継続的な就学のための支援が不可欠であるが、その対応が大変困難で、どのように向き合っていくかが課題である。

2. 教育設備・環境整備

以下の事業を実施した。

- カンボジア：1校建設。長年にわたり教育支援充実のために実施してきた学校建設も42校目が完成した。公的・他機関による学校インフラのサポートも充実してきたため、本会としての学校建設支援は、今年度にて終了することとした。
- モンゴル：ウランバートル郊外のゲル地区に昨年度設立した保育園に、政府からの認可と補助を得るために必要な教材およびインフラ(井戸など)を設置し、無事認可・補助を得ることができた。これにより、本

会におけるモンゴルゲル地区の保育園支援は終了した。

- インド：インドの日印友好学園 2 校（コスモニケタン、パダトラ）の運営及び、学校環境整備を支援した。現在の教育ニーズに対応するために映像を利用できる授業導入のための資機材の支援と共に、教材や遊具などを支援した。
- ネパール：1 棟の建設実施。地震の被災地の学校に対し、耐震基準に沿った校舎の建て替え支援を行った。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

- インド：引き続き、タミルナードゥ州ディンディガル県、ナマカル県の 2 県の HIV/AIDS の児童及びその家族 5 世帯の支援を行った。

4. 栄養改善とストリートおよび、スラムの子どもたちの保護・教育支援

(1) 栄養改善（ネパール）

タライ平野の低所得地域のピトゥリ村スリーサンティ小学校の約 200 名の生徒に、継続してたんぱく質補給のための卵と牛乳の給食支援と栄養指導を実施。特に給食は教育委員会からのサポートがない就学前クラスの子どもたちへ実施した。また、新たに山間部の昔ながらの生活習慣で暮らしている山間部の村の栄養調査を実施し、今後の支援の方向性を検討した。

(2) ストリートおよび、スラムの子どもたち支援（インド、フィリピン）

A. インド：ナグプールのチャイルドアカデミー（子ども園・スラム子ども対象）への支援。看護師による子どもたちの健康診断などを行い、劣悪な環境の中過ごす子どもたちの健全な育成のための活動を実施。国内でも本支援を継続できるようにチャイルドアカデミー担当者を招き、支援者の拡大及び継続支援へつなげる広報活動を実施し、支援強化をおこなった。

B. フィリピン：マニラ市内の鉄道のすぐそばの地区の一つサンアンドレスで、廃材を集めて作られた家として劣悪な環境で生活している子ども達への教育支援を継続して行なった。また要請のあったリザール州の貧困層の子どもの補習や教育継続のためのデイケアセンター設置に関しては、現地の諸事情により、次年度への実施に見送った。

C. 『貧困対策事業』 - 自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導 -

1. マイクロクレジット支援・能力開発

- カンボジア：これまで農村部の自立のために実施してきたマイクロクレジット事業は、政府の金融政策により NGO によるマイクロクレジットは廃止決定。そのため、廃止前に保有資金を全てこれまで築き上げてきた村落組合に委ね、組合が今後の村の開発に充てることにし、整理した。国の規制により貸付けを今後実施していくことは難しい状況となり、最後の支援を実施した。
- インド：①マハラシュトラ州ガッチオリ県のナブキン工場設置支援に必要な資金が集まらず、資機材は購入に至らず実施できなかった。
②アムラワティ県の女性の雇用促進のための養鶏事業は 50 人の女性が養鶏をスタートさせた。
③バンガロールにて貧困層の雇用促進を目指した職業訓練学校建設事業がスタートし、職員 1 名が現地赴任した。（外務省 日本 NGO 連携無償資金協力事業）
- スリランカ：農村開発のために農村ファシリテーターの支援を実施した。
- ネパール：小作農家 34 人に対して養蜂の指導と養蜂巣箱の設置を支援し 8,000kg の蜂蜜が収穫された。農家の自立促進を実施すると同時に、地震被災地の農業振興のために適正農産物の調査を実施。
- フィリピン：ソルソゴン州の 4 地区に 25,000 本のマングローブ植樹により漁場の復活による生計の安定支援をおこなった。

2. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

ネパールにて、3 ヲ村にバイオガスの設置時にトイレの設置を促し、24 世帯に 24 基のトイレを設置。地域の環境改善や公衆衛生環境を向上することができた。

(2) 医療支援

- インド:ムスカ村に11月設立した病院運営の支援として、医師の給与及び薬代の一部及び資機材購入の支援を実施し、3月までに約3,520人の人々が診療を受けることができた。
- 中国:農村地域の医療支援は現地の事情により次年度に実施を見送ることとした。
- ネパール:無医村の農村地域の女性の健康維持のために100名に生理用ナプキンの配布、看護婦による講習会、性教育のテキスト作成を行い、女性たちが抱える問題に向き合った。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営及びマネージメント強化の為に、インド(RUDYA、HDSI)、カンボジア(KAFS)、スリランカ(SARVODAYA)の運営支援と活動強化を行った。

D. 『環境事業』 - 自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援 -

1. 植林・水源涵養林養育支援

気候に左右される植林事業はインドネシアで3年ぶりに実施する事ができた。環境保全のために不可欠な植林だが、温暖化による気候変動が大きなキーになっている。

- ネパール: 地域の森を守る事業として、コミュニティフォレストの植林を2ヵ村に630本を植樹した。
- インドネシア: 北スラウェシ州タリセ島にて黒檀3,000本を植樹した。

2. 環境改善・市民による環境保全活動(国際グリーンスカウト運動)

1986年に発足した本会提唱の環境保全市民運動(通称、グリーンスカウト運動)は、現地提携団体を中心に様々な環境地球環境保全に関する啓発活動が行われている。

インド:マハラシュトラ州にて、継続的に実施されているグリーンスカウト運動の啓発に必要な支援を実施。

ネパール:各地で活動するグリーンスカウト運動と小学生の環境セミナーを実施し、9校の児童と教師に対して環境への意識向上を目指したセミナーを2回実施し、校内活動や地域活動への推進につなげた。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

ネパールでは森林破壊の歯止めと薪の代替燃料確保のため牛糞発酵によるバイオガスの普及を実施、新たに24世帯に24基のバイオガスプラントを設置した。薪の年間使用量を1世帯当たり約3,840Kg削減でき、年間6トンの二酸化炭素排出を抑えることにつながった。(ゆうちょ財団NGO海外援助活動助成事業)

E. サイクル・エイド事業

大阪府内の放置自転車有効利用の一環として、再生自転車を必要とするアジアの開発途上地域に寄贈する事業。本年度は、タイのラーチャブリー県を中心に350台、カンボジアのプレイベン州に284台の自転車が寄贈された。主に子ども達の通学や女性、貧農の生活改善のために有効活用され、新たな仕事への取組みの機会となり、受益者たちが自立への一歩を踏み出した。(競輪の補助事業)

上記の各事業に関連して、ワークキャンプは4ヵ国(インドネシア、カンボジア、ネパール、フィリピン)と11回の実施し、のべ195名が参加。プロジェクト視察8回を行った。

II. 公益目的事業 2 国際交流支援事業

A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

将来の本会のネットワークを担う各国各部会の職員の研修、育成のために、奨学金支援を行っている。フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースに2017年度は、JAFS職員候補生(柿島裕氏)1名を派遣した。その後、本会の職員となり、本会の活動推進のために従事している。

インド ナグプール在住のリニ・パランジャペの看護学校学費を支援した。卒業までの学費の奨学は終了した。2019年2月に卒業予定。

2. 海外ボランティア研修制度

2017年度は、研修制度の直接希望者はなかった。

B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

第 27 回アジア国際ネットワークセミナーを 7 年ぶりの日本開催で大阪・奈良・京都にて、実施した。アジア 11 カ国から 70 名が来日、国内を含めて約 100 名が参加した。テーマは「グローバル時代における地域経済と地域文化の存続をめぐる」。基調講演やセミナー、参加各国の AFS チャプターからの活動報告と活動における課題を 5 つの分科会（地域、環境、若者、教育、産業）に分かれて話し合い宣言文の採択を行った。

尚、本事業の一部は独立行政法人国際交流基金アジアセンター アジア・市民交流助成プログラムより助成を受け実施した。

(2) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金。2017 年度は、上記のアジア国際ネットワークセミナーにて共通基金の拡大に向けた政策や課題の共有、会計報告を行った。

(3) アジア・ユースサミット

日本にて第 5 回アジア・ユースサミットを実施。地球の未来に向かって「地域を良くするプロジェクトを創ろう！」をテーマとし、アジア 11 カ国より学生 15 名、引率 16 名。日本側は 9 校より学生 37 名、教員 11 名の参加より、各地の社会的課題に関して高校生が調査し立案したプロジェクトが発表され、その後共通課題をグループディスカッションにて話し合い、アクションプランを発表、SDGs の 17 目標を評価基準としてまとめられ共通指針が採択された。この運営にボランティア及び協力者 147 名の関わりにより実施でき、合計 226 名が参加した。尚、本事業は平成 29 年度外務省 NGO 事業補助金、平成 29 年度国際交流基金・地域リーダー・若者交流助成プログラム、2017 年度三菱 UFJ 国際財団国際交流助成事業より助成を受け実施した。

2. 国際体験交流（スタディツアー等）

2017 年度は、フィリピン、スリランカ、ネパールの 3 カ国にてスタディツアーを実施し、20 名が参加した。

III. 公益目的事業 3 災害罹災者に対する生活支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1) 熊本地震

2017 年度も引き続き被災した人々の支援を実施した。活動地を最大の被災地である益城町にし、応急仮設団地 5 カ所の見まわり支援などを継続して行った。この活動は、2018 年 3 月 31 日終了した。全国から多くのボランティアの訪問協力を得られ、より快適な仮設団地暮らしを提供することができた。またネパールから被災地支援のクトゥンバ楽団が訪れ、被災地同士の国際交流が実現した。本事業は特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームと益城町生活再建支援課から助成を受け実施することが出来た。

(2) フィリピン台風被災者支援

現地の対応で完了したため、支援実施しなかった。

(3) ネパール中部地震

2015 年 4 月 25 日に発生した後も全体的にみると復興が進まない中、発生当時より本会の支援地であるシンドゥパルチョーク郡ボテシパ村の低所得者の住宅再建を耐震構造建設法にて実施、12 軒の建設を行った。また、復興モデルエリアづくりの一環として再生可能エネルギーの使用の普及や住宅周辺の植林及び庭造りを推進した。併せて今後の災害対応準備の一つとして、避難袋の配布支援を 200 世帯に行った。復興につなげる女性のエンパワーメントのために立ち上げた婦人会が役員を決め当事者主体の会

となった。加えて、支援の手が差し伸べられていないリモートエリアの学校に対する校舎再建支援や水インフラ復旧等生活基盤整備を実施、生活安定化に向けた取り組みを引き続き行った。

(4) 東日本大震災

2017年度は、被災地を訪れ復興を応援する恒例のスタディツアーを実施した。

(5) スリランカ水害支援

2017年5月26日、コロンボ南西部ラトゥナブラ、マータラ等で発生した大雨による水害・土砂崩れにより被災した子どもたちに対して学用品、バッグなど学習道具支援を行った。

IV. 公益目的事業 4 普及啓発事業

A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) チャリティプログラム

本会の活動に様々な形で一般市民に加わってもらえるよう様々な形のチャリティ企画を行った。2017年度も恒例の JAFS チャリティバザールを年2回実施。また「アジアンチャリティフェスティバル」も2年目を迎え、多文化共生の観点から在関西の外国人との交流を兼ねたチャリティイベントとして400名を超える多くの参加者があった。その他、それぞれ各地域や各ファミリーグループの支援趣旨のもと、チャリティイベントやコンサーを実施した。

(2) 国際理解教育講座

国際理解教育講座として、学校及び団体へ講義を行った。2017年度も引き続き、小学校、高校、大学やCSR関連機関への講義があり、より幅広い社会層の人たちへ講義を行うことができた。（講師派遣のべ14カ所、参加生徒・団員数941名）その他、学校からの委託により授業を受け入れ、国際理解に対する講義を実施した（2校27名）。

(3) アジア文化理解講座

2017年度も引き続き、アジア家庭料理教室を中心に、料理を通じたアジアの文化理解に努めた。毎月アジアの様々な国の「家庭」料理を取り上げ、アジア13地域13回の教室を行い、延べ203名の参加があった。

(4) インターンシップ制度

神戸学院大学、大阪商業大学、近畿大学から各1名と個人応募によるインターンシップ1名、計4名が本会の活動を通じて国際協力団体の活動内容と市民運動体の運営に関して学ぶ機会となった。事務局内の活動及び国内の様々なプログラムに参加し、海外プロジェクト啓発活動では実習を通して国際協力について学び事後活動につながる研修を行った。

(5) 法人関連プログラム

本会の18カ国のネットワークと法人とのつながりを強め、国際貢献のできるグローバルな人材を育成するために、法人を対象としたセミナー（国際貢献型グローバル人材育成セミナー）を開催した。2017年度は、ミャンマー、台湾をテーマとするセミナーの他、日本銀行大阪支店長との交流会も開催し、延べ88名が参加した。

(6) 関連プログラム

関係団体と連携の中、理事、評議員、運営委員、講師として協力。関西のNGO活動の推進のため、関西NGO協議会の理事として、関西国際交流団体協議会は幹事として関わっている。加えて関西最大の国際協力のお祭り“ワン・ワールド・フェスティバル”は実行委員会メンバーとして協力。その他、ネットワークNGOのJANICによる全国最大規模の国際協力に関連するイベント「グローバルフェスタ」に本会の関東地区が参加。ジャパン・プラットフォームからは助成だけでなく、益城町支援における連携を行い、充実した活動が展開できた。その他多く

の関係団体との繋がりの中で本会の活動の更なる推進と関西の NGO としての役割を担った。

2. 地区活動

本会の活動をより多くの人たちによって支援されていくためには、様々な地域活動が必要。

地区世話人、協力スタッフを中心に広報、ぞうすいの会、ウォーカソン、グリーンスカウト(環境活動)等を中心に各啓発活動が行われた。

3. 広報

(1) 機関誌

本会活動情報誌「アジアネット」を年 4 回発行し、事業報告と海外情報などを提供した。

新規の支援者を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペース向けにも送付した。

(2) インターネット・フェイスブック

ホームページで本会のイベント情報やニュースなどを随時更新した。フェイスブックでも適宜必要なイベント情報の掲載、広報、報告を行った。

4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

各支援会、ファミリーグループなど 17 グループが様々なイベントやチャリティ活動に参加し、本会の支援事業の応援を精力的に展開していった。英語や旅をすることを通して国際協力をする英会話クラブ、旅人(たびんちゅ)などの新しいファミリーグループができた。

5. 関連市民活動

関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイ OSAKA の活動もそれぞれの設立趣旨の下、活動が活発に行われた。

B. 環境保全・啓発教育事業

環境保全・教育を中心に次世代の人材育成のために下記の事業が実施された。

1. 国際グリーンスカウト活動

(1) 「土と水と緑の学校」開催

「土と水と緑の学校」は 34 回を迎えた。総勢 154 名参加の 3 泊 4 日のプログラムを実施。台風のため期間を短縮しての開催となったが、自然の中での子どもたちの交流が育まれた。

(2) 美山「土と水と緑の自然学校」開催

美山「土と水と緑の自然学校」京都府南丹市美山町にて開催した。「農村と都市の交流」を基本とし、自然体験および農村に暮らす人々との交流を通して自然と人、人とコミュニティの繋がりを体感し、学ぶ実践型のプログラムを実施した。ボランティアを含め合計 44 名が参加した。

(3) 国際グリーンスカウト国内活動

本会が提唱した国際グリーンスカウト(“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する)活動として、アジア各地のグリーンスカウトメンバーが活動を行っている。国内では大阪、吹田、寝屋川・枚方の 3 地域に部会を持つ。大阪は新宮や京都の美山町で環境プログラムの開催を行い、吹田は、毎月 1 回例会、川清掃活動、無人島キャンプを実施。寝屋川・枚方は、地域活動グループと共に緑化農業活動に参加した。

V. 運営管理

本年度も、理事会(5 回)を開催、事業や運営の課題について話し合った。それに伴い、各常置委員会もそれぞれ適宜実施された。

以上を以て 2017 度の活動事業報告の概要としたい。

I. 開発支援事業

I. 開発支援事業

I-A. 水事業

1. 井戸・飲料水供給

(2018年3月現在)
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国名	2017年度完成	累積
インド	4	477
インドネシア	-	45
カンボジア	20	410
スリランカ	2	107
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	17	230
バングラデシュ	0	152
パキスタン	-	8
フィリピン	7	387
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	-	22
ラオス	-	21
合計	50	1,949

●インド

RUDYA マハラシュトラ州ガッチロリ県 1基
ポンプ式井戸 1基
マハラシュトラ州ガッチロリ県ダンノーラ地区コレガオン村

HDSI マハラシュトラ州アムラワティ県 3基
ポンプ式井戸 3基
アチャルプール地区マルハラ村
アチャルプール地区サバリ村
チャンドール・バザール地区シラジガオンカサバ村

●カンボジア

KAFS タケオ州 20基
露天式井戸 20基
トレアン郡ロネアム地区トメイ村(4)
トレアン郡ロネアム地区クラウン・トベア村(2)
トレアン郡クバブ地区ドゥン・プー村(2)
トレアン郡ロネアム地区トラペアン・クノル村(4)
トレアン郡ロネアム地区トラペアン・ロンベアック村(1)
トレアン郡プレイスルック地区ネアル村(1)
トレアン郡プレイスルック地区プレイスルック村(3)
トレアン郡ブラムベイモム地区ダムナクリーチェア村(1)
トレアン郡ロカクラウヴ地区ソーチャン村(2)

●スリランカ

SARVODAYA 2基
露天式井戸 2基
ウーバ州バドゥラ県ハリエラ地区スプリングバリー村
ウバ州バドゥラ県ウバパラナガマ地区ウナパナヤ村

●ネパール

AFS-ネパール ネパール全域 17基
簡易水道貯水式井戸 2基
バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.
Word No.10 ネパネ村 (1)
バグマティ県シンドウパルチョーク郡メラムチ N.P.
Word No.9 ジャミレ村(1)
簡易水道付パイプライン式井戸 14基
バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.
Word No.10 ネパネ村 (6)
チャンデソリ H.S.S. (2)
バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.
Word No.10 バダレ村 (1)
バグマティ県シンドウパルチョーク郡メラムチ N.P.
Word No.9 ジャミレ村 (5)
露天式井戸 1基
バクタプール郡チャングナラヤン町 Word No. 9, ソウドゥル村

●フィリピン

KALIPI スエパエシハ州 5基
ポンプ式井戸 5基
サンタローザ町サブサブ村
サンタローザ町ブルゴス村
サンタローザ町ソレダット村
カバナトゥアン市パンガティアン村マンガハシルワソン
カバナトゥアン市パンガティアン村マンガハシルワソン

ASI バンガシナン州 1基
露天式井戸 1基
ボリナオ ビクトリー村

AFS-UMD ソルソゴン州 1基
簡易パイプライン式井戸 1基
マトノグ町シナルマカン村 シナルマカン小学校

●インドネシア

現地の事情により実施しなかった。

●バングラデシュ

要請に基づき井戸の建設を実施したが年度内に完成しなかった。(右記の表 建設中の井戸参照)

I. 開発支援事業

建設中の井戸	25 基
インド	5 基
カンボジア	0 基
スリランカ	3 基
ネパール	0 基
バングラデシュ	5 基
フィリピン	9 基
ミャンマー	1 基
ラオス	2 基



寄贈した井戸の完成式をワークキャンプの折に実施（フィリピン）



完成した井戸できれいな水に喜ぶ女性たち（インド）



完成した井戸を囲んで喜ぶ村人たち（カンボジア）



念願の井戸が完成し、水を汲める事を喜ぶ女性たち（ネパール）



貯水式の井戸が完成し、水を汲む女性（スリランカ）



地震後やっと水が学校に戻り大喜びの子どもたち（ネパール）

I. 開発支援事業

I-B. 子ども事業

1. 初等教育普及・向上

(1) アジア里親の会

人間形成に不可欠な学校教育。子どもたちは教育を受ける権利があり、大人はそのための環境を整えなければならない。しかし、アジア地域では経済的理由やその他、通学困難な状況下に置かれ、学校に通えない子どもたちがまだ多くいる状況である。一人でも多くの子どもが就学により基礎教育を受ける機会を得ることが出来るように、インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンの子どもたちを里子、日本側支援者は教育里親としてサポートするプロジェクトを実施している。加えて中途退学生を減少させ、農村部の子どもたちの教育向上をめざす。

近年、学校に通うことの有益性を親たちも理解し、農村部においても就学率が向上しつつある一方、未だ南アジアにおいては女子教育に対する理解が不足している。また経済成長している国においては、ある程度の年齢になると就学よりも働いて賃金を得、家族を支えることが優先される現状がある。

加えて学校には、教材不足、低質な教育、教員不足、両親の無理解など様々な問題・課題が山積みで、その改善には地域(コミュニティ)を巻き込んだ学校教育の確立を行っていく必要がある。本支援では、里子の学費や彼らが通う教育施設の運営を支援。支援と同時に里親と里子が手紙を通じての相互交流を行った。2017年度は475人の里子を支援。里親の存在が里子たちの心の支えにもなり、学習への意欲向上など良好な方向に導くことにも繋がっている。

アジア里親の会 里親決定状況 (2018年3月現在)

国名	2017年度里子数	里子累計数
インド	186	437
カンボジア	82	208
ネパール	141	250
バングラデシュ	38	217
フィリピン	28	31
合計	475	1,143

●インド

BSVIA 教育支援事業 110名

【カルナータカ州ビジャプーラ県ブルナプール村】

アジア里親の会の支援を通して、日印友好学園コスモニケタンの教職員の給与、教材、制服、文具などの運営の一部を支援した。一方で学校運営自立のために、授業料の確保、他校からの転入生、成績が悪化した生徒のための有償のサマーコースなどを実施した。

SSH 教育支援事業 10名

【タミルナドゥ州ディンディガル県 3名

ナマカル県 7名】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身が HIV に感染し、差別を受けている子どもたちを対象

に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援。加えて子供たちカウンセリングプログラムを実施しケアを行っている。(累計70名)。

RUDYA 教育支援事業 30名

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】

日印友好学園パダトラ小学校に通う少数民族の子供たちへの教育支援。加えて反政府活動により小学校が封鎖された遠方から通学を余儀なくされた子供たちが、入寮し就学が継続できるよう支援。2016年、政府助成校として認定されたが、未だに助成金は僅かしか届かず、上記の子供たちへの継続支援と学校運営支援を行った。

AFS-Nagpur チャイルドアカデミー 36名

【マハラシュトラ州ナグプール県】

スラム街の子ども達が継続的に就学し、教育を受け自立を促すことを目指した支援。加えて十分な食事を摂ることが出来ない子供たちに給食の提供や読み書き教室を実施して、未就学者の子供達に学習への意欲を与える活動をおこなった。

●カンボジア

KAFS 教育支援事業 82名

【タケオ州】

タケオ州の小学校、中学校、高校の運営支援および、子どもたちへの教材や年一度の校外学習の支援。里子を含めた村の子どもたちを対象とした英語の課外授業の支援。

●ネパール

AFS-Nepal 教育支援事業 25名

【ノールパラシ郡ピトゥリ村】

ピトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援(継続就学と高校教育修了)と学校運営支援。

ヤンヤンビ学園 9名

【カトマンズ郡シタパイラ村】

ヤンヤンビ学園近郊のシタパイラ地域とその周辺に住む、就学困難な子どもたちに就学の機会を与え、継続就学と高校教育修了を目指した支援。

AFS-Nepal ナウリンセカンダリースクール 65名

【カトマンズ郡チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない子ども、特に移住労働者の子女への学費支援と学校運営支援。

AFS-Nepal ボテシパ村 教育支援事業

チャンデスウォリ H.セカンダリースクール 20名

AFS-Nepal サラソワティ L.セカンダリースクール 18名

【シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村】

2015年の中部大地震により大きな被害を受け、家屋倒壊により経済状況が悪化した世帯の子どもたちの就学支援。高等学校卒業まで就学できるよう学費支援と学校運営支援を行った。

I. 開発支援事業

AFS-Nepal バクタプール教育支援事業

クリエイティブ イングリッシュ セカンダリースクール 4名

【バクタプール郡バクタプール市】

2015年の大地震で大きな被害をうけ、その後経済状況が困難になった学生たちが就学を継続でき、10年生(中等教育終了学年)を修了し高等教育に進学できるよう支援。

●バングラデシュ

BDP 教育支援事業

38名

【ダッカ・ガジプール県】

バングラデシュでは小学校卒業以上の就学費負担が高額のため個人負担費が多くなるために中学校以上の就学率が下がる。そのため就学意欲のある子どもが中等～高等教育を受けることができるよう就学支援を実施。

●フィリピン

ASI 教育支援事業

28名

【カビテ州ダスマリネス町バリパラン】

【マニラ市マラテ町サンアンドレス】

マニラ市郊外のダスマリネス町バリパランに強制移住させられた家族の子どもたちを対象に支援。就学継続できるように授業料、教科書、教材を支援。加えて、バリパラン内のコミュニティセンターにて学校補習を行った。2016年度からは、彼らの元居住先であった国鉄線路沿いの地区、サンアンドレスにて移住先のない家族の子どもを支援。本事業を通しては、上記同様子どもの授業料、教科書、教材支援に加え、学校補習を支援した。

2. 教育設備・環境整備

(1) 学校建設

(2018年3月現在)

国名	2017年度建設数	校舎棟累計数
インド	-	20
インドネシア	-	2
カンボジア	1	42
タイ	-	10
中国	-	1
ネパール	1	※38
パキスタン	-	2
フィリピン	-	7
ベトナム	-	3
合計	2	125

※学校及び研修施設、コミュニティホール数を含む

●カンボジア

KAFS 小学校校舎建設 1棟

【コンポントム州ストーン郡サムプロッチ村、サムプロッチ小学校】

コンポントム州ストーン郡サムプロッチ村の周辺5村から、子どもたち約1000人が通うために圧倒的に校舎数が圧倒的に少なくなっており、新校舎の建設は急務であった。この度、校舎1棟(5教室)が建設され、午前、午後両方のクラスにおいて、生徒約

400名が通えるようになった。

●ネパール

AFS-Nepal 小中学校増設及び設備支援 1棟

【シンドウパルチョーク郡メラムチ ジャミレ地区】スリー ゴルメス ウオリ ベイシック スクール

※地震により倒壊した校舎の復旧に対する建設を実施。詳細はネパール中部大地震支援事業の欄に記載。

●フィリピン

ASI デイケアセンター建設支援事業

【リザール州カルドナ町サンパッド村、ナグサンディグ集落】

2009年に発生した台風オンドイにより破壊されたナグサンディグ集落の子どもたちの就学前教育、学校教育補習施設であるデイケアセンター再生支援の要請を受けた。現地の諸事情により、建設に次年度おこなうことになった。

(2) 教育環境整備

●インド

BSVIA 日印友好学園コスモニケタン学園

【カルナータカ州ビジャヤプーラ県ブルナプーラ村】

コスモニケタン学園の小学校に子どもたちの勉強向上を目指して机と椅子20台を支援した。

RUDYA 日印友好学園パダトラ小学校

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】

インド共和国記念日に、全校生徒対象に新しい制服、教科書、教材および遊具を支援した。

●モンゴル

MoAFS ゲル地区の保育園支援事業

【ウランバートル市エミン・ウルグマル・ゲル地区】

ウランバートル市郊外のゲル地区において、地方から集まる貧困層の子どもたちのために昨年度開校した保育園。政府からの補助と認可を受けるために本年度は、必要な教材、文具、遊具および、水インフラ(井戸)の設置を行い、政府の監査の結果、無事、認可と補助を受けられるようになった。政府の補助により先生の給与などが確保されたために、この保育園の支援は終了した。

3. HIV/AIDS子ども感染予防

●インド

SSH HIV/AIDS 支援

【タミルナードゥ州ディンディガル県・ナマカル県】

タミルナードゥ州ディンディガル県、ナマカル県で非識字層の移動労働者が感染経路となりHIV/AIDSが農村に広がった。子どもたちへの教育支援を中心に、生活の安定とAID発症の減少を目指した支援を5世帯に実施。現在インドにおいて感染、発症率ともども減少傾向にあるが、未だに上記2県の感染率は、タミルナードゥ州、州都チェンナイにつぎ2番目、3番目であり、感染源はいずれもトラックの運転手や移動労働者(低カースト層の主な職業)であることから、職業別におけるHIV/AIDSの啓発強化が課題となっている。その背景に基づく支援実施である。

I. 開発支援事業

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援

●ネパール

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ノールパラシ郡カワソティー市ピトゥリ村】

ネパールの農村では家計が不安定なため、日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。健康状態や成長度合いが改善されることを目的として小学校給食を支援。同時に栄養指導を行うことで、給食の意味や食べ物よりの健康維持への理解を促した。農村部ではカロリー確保するために炭水化物中心の食生活で、成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分である。ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約 200 名の生徒を対象に、週に一度、卵と牛乳の給食を継続的に支援（23 年間）。学校のプログラムに組み込まれ教育的要素を兼ねたプロジェクトに成長している。継続支援を行う事で就学生徒たちの健全な学校生活と健康保全に繋がっている。

●フィリピン

ASI ストリートチルドレン支援

【カビテ州ダスマリネス町バリパラン】

【マニラ市マラテ町サン・アンドレス】

マニラ市内の国鉄線路沿のサン・アンドレスには、路上で生活していた家族が集まり、廃材でつくられた家に身を寄せ合っている。またその一部がバリパランに強制移住させられ、新たな土地で仕事をみつけ暮らしている。しかし、経済状況は厳しく、家庭のために学校からドロップアウトしてしまう子どもたちも多い。子どもたちが継続して学校に通い教育を受けることができるよう、学用品等の支援、コミュニティセンター内で学校補習や衛生教育、リーダーシップトレーニング、環境教育等を実施。高学年の子ども達は青少年のリーダーとしてプログラム等を主導しておこなうことができるようになってきた。両親に対しても子どもたちの教育の大切さや地域の環境改善、また生計支援や子どもたちの価値観形成等について指導を実施している。



学用品の寄贈を喜ぶ子どもと家族（フィリピン）



新学期の教科書配布を心待ちにする生徒達（バダトラ小学校）



完成した新校舎で授業を受ける子どもたち（カンボジア）



本会支援で完成した 42 棟目の校舎(カンボジア)



美術教授より表現する事の楽しさを学ぶ子どもたち(ネパール)

I. 開発支援事業

I-C. 貧困対策事業

1. マイクロクレジット支援・能力開発

(1) マイクロクレジット支援

●インド

RUDYA 女性の自助グループ(SHG)支援事業

【マハラシュトラ州ガッチオリ県ダンノーラ地区

ラクシミーボリ村】

本会の支援により設立された貧困層の個人小規模店舗や女性の自助グループ(SHG)へのマイクロファイナンスのために設立された「アダーシュ信用組合銀行」。自己資本の強化の貯蓄率の向上を目指して、村に働きかけを行ったが、業績は前年度と横ばいであった。

●カンボジア

KAFS マイクロクレジット支援事業

【タケオ州ドーンケオ郡、トリアン郡】

タケオ州ドーンケオ郡、トリアン郡にて両郡 56 村を対象に実施しているマイクロクレジット事業。政府の金融政策変更に伴い、マイクロクレジット事業を実施している NGO は、マイクロファイナンス機関(MFI)、もしくは銀行業として登録するか、事業を廃止するか決定しなければならなかった。加えて村に利息の一部を村落開発費用として充てていた分を全て銀行に預けなければならず、残念ながらマイクロクレジット事業から撤退することを決定した。

今後も村落委員会の開発における決定事項は、KAFS のタケオ州スタッフが関わり、政策決定権の一部を持つことで合意をしている。

これまでの融資は、MFI・銀行として登録し、銀行に預けるか、消化するかを決めなければならず、KAFS は、56 村に作られた村落組合にこれまでの融資を預け、開発費用(道路建設、植林、井戸修繕、貧困層の高齢者へのケア)に充て、事業の整理を行った。

これらの金融政策の変更に関しては、一部の MFI が高利息により、無許可のもとマイクロファイナンスを実施し、自殺者などを出したために、カンボジア中央銀行が MFI 個別の利息や収入を徹底的に管理するために作り上げられた新政策であり、本会のように村に預けて開発資金に活用してきた NGO や MFI が撤退をせざるを得なくなった。

●スリランカ

SARVODAYA サルボダヤ農村地域の人材育成支援

【スリランカ全域】

スリランカ提携団体サルボダヤのビジュバ・ニケタン国際平和・瞑想研修センター(人々の心に眠る能力を覚醒させる)およびサルボダヤ・スワセタ・セワ(孤児の教育・障害者の職業訓練支援、高齢者支援)にボランティアシニアスタッフを派遣。自らの経験を通して、新たに活動に携わるファシリテーター育成のための研修等の支援をおこなった。

(2) 小規模産業育成支援

●インド

HDSI 低所得層の女性による養鶏を通じた生活改善

【マハラシュトラ州アムラワティ県アチャルプール地区ダリヤバード村】

HDSI が 2002 年から携わってきたアチャルプール地区ダリヤバード村の女性の自助グループ(SHG)の 50 世帯を対象に鶏の雛、小屋、餌および、ワクチン注射、養鶏訓練の提供を行った。これらのグループは、低所得層であり、収入のために養鶏を行っていたが、雛も少なく、鶏を守る小屋もなかったために、鶏が病気で死ぬなどし、効率よく雛を育てることができず、期待するような所得の向上に繋がらなかった。

この度の支援によりダリヤバード村の 50 世帯を代表する女性たちは、雛 50 匹、餌、小屋、ワクチン注射と養鶏訓練を受けることができた。

SPARSH 女性の雇用促進支援事業

【マハラシュトラ州ガッチオリ県ダンノーラ地区】

性や生殖に関する差別や虐待をなくし、雇用を生み出すために、農村の女性たちが働く生理用ナプキン工場が SPARSH により建設された。2017 年度の引き続き、製造機器の導入の要請を受けてきたが、現地の諸事情に伴い、製造機器の導入は出来なかった。

●ネパール

AFS-Nepal 養蜂による小農家収入向上支援

【ナラヤニ県チトワン郡ゴイラコット】

養蜂生産者 34 名の収入向上支援

ネパールの多くは農業に依存した生計であるが、安定収入につながる農業ではなく各世帯が食べ続けるための農業である。そのため海外に出ていく人々が多く、地域が衰退していく状態にあり、地域特産品を生む農業の実施が急務な状況であった。そのため地域の小農民 34 人に対して 250 の巣箱の提供と、養蜂のトレーニングや講習を行い養蜂を実施。裨益者農民による生産者グループがつくられ、実施 2 年目の本年度は昨年度より農民 2 人と巣箱を 46 増やすことが出来、8,000 kg の蜂蜜を収穫。収入を得ることが出来た。今後も生産量を増やしていくと同時に、生産者グループへの加入者を増やして収穫量の安定性を確保していく。

●フィリピン

AFS-UMD マングローブ植林プロジェクト 25,000 本

【ソルソゴン州マトノグ町サンタイザベル村、バグリラン村、ブルパンダン村、シナルマカン村】

沿岸地域の養殖開発や薪のために失われたマングローブを取り戻し、漁業に携わる人々が持続的に人々の漁場を作るために 2012 年度から開始したマングローブ植林事業。本年度は、新たに 2 つの村が事業に加わり、計 25,000 本、累計 85,700 本のマングローブを植林することが出来た。毎日の生活に追われていた人々の心にも環境保全の意識が少しずつ根付き、マングローブ植林や成長のためのメンテナンスに協力する人々が増えてきた。

(3) 職業訓練

I. 開発支援事業

●インド

IJSDC インド、カルナータカ州バンガロール県における低所得層の若者の安定した雇用確保のための職業訓練学校建設事業(第1期)

【カルナータカ州バンガロール県バガルール地区バガルール村】

2018年2月20日に本事業を開始した。3月末までに学校のメイン校舎と学生寮の70%が完成した。メインの校舎完成後、キッチン、職員室、事務室、多目的ホール、研究室を各1棟ずつ建設予定であり、2018年9月開校予定である。

加えて、職業訓練学校のカリキュラムを構築すべく、本会および現地スタッフ、企業から5名が、カリキュラム構築チームとなり、中心になって、授業の時間割、事業項目、教材などを構築していく予定である。

本校は、製造業などの技術訓練を中心とした学校でなく、これまで職業訓練教育の欠けており、低所得層の若者たちが村や学校で学ぶことのなかったビジネスマナー(タイムマネジメント、社内における自己表現、服装、心構えなど)を指導を通して、持続的に働ける社員を育てることが目的である。

今後は、現地NGO(IJSDC)と本会が共にインド政府直属のプログラム(SKILL DEVELOPMENT PROGRAM)に参加し、本校をこのプログラムの一環として行うための登録を行い、このプログラムが認可した学校として、活動を行う予定である。

これまでの調査により、技術はあるが、マナーが欠落し、辞めざるをえなかった若者が多かったことがわかり、その課題を踏まえ、本校建設に至った。加えて製造業にてライン作業に携われる最低限必要な技術訓練もカリキュラムに含め、心技一体整った若者を育てていく予定である。

(平成29年度日本NGO連携無償資金協力支援事業)

2. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

(2018年3月現在)

国名	2017年度完成	累積
インド	-	1194
カンボジア	-	4
バングラデシュ	-	275
パキスタン	-	6
ネパール	24	952
タイ	-	9
ラオス	-	1
合計	24	2,441

●ネパール

AFS-Nepal 農村トイレ建設支援 (バイオガスプラント設置付帯事業) 24基

【バグマティ県バクタプル郡バグスワリ村】

ネパールでは、バイオガスプラント設置時にトイレの設置が条件付けされている。そのためにバイオガスプラント設置時にトイレ設置を始める農家が多くなっている。本会のバイオガス設置対象としているバグスワリ村、ボデシパ村では今年度はバイオガスプラ

ント24基の設置に対し24世帯にてトイレの設置が行われた。

(2) 医療支援

●インド

RUDYA ムスカ村健康増進プロジェクト

【ガッチリ県ダンノーラ地区ムスカ村】

昨年度の末に集まった病院開設資金を受け、病院用に空き家の改築と病院に必要な資機材(ベッドやイス、診察デスク、聴診器、血圧計、喘息緩和機器など)を導入した。途中、雨期に伴い、病院の改築が遅れ、予定していた開設時期(2017年9月)より2ヶ月遅れで、2017年11月に病院を開設することができた。

この病院開設により、ムスカ村および周辺11村の2285人が内科、軽傷外科などの治療を受けることができるようになった。

運営を3年間継続することにより、政府から補助が受けられるために、今後は、運営を支援しなければならず、その対策として、診察は週2回(ダンノーラ地区病院院長1名を派遣)、看護師を常勤(週5回)をおき、常時医師の指示のもと薬の処方を実現した。

病院運営は、今後、村から運営費用の40%を集め、60%を本会が支援し、3年間継続することとなった。2018年3月末までにのべ3,627名の患者が診察を受けることができ、これまで地区病院まで45kmの道のりを通っていた病人(喘息や肺炎など)もすぐに診察、治療を受けられるようになった。

今後は、2018年度実施予定の小児ワクチンの徹底化などの啓発にも努め、村全般の医療向上に努める。

(2017年度連合愛のカンパ助成事業)

●ネパール

AFS-Nepal 地域医療向上支援事業

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡ボデシパ村等】

山間地にあるボデシパ村は薬屋はなく、女性は月経の際に市販のナプキンを使用することは少ない。使用しても処理する術がない状況でもある。そのため月経時に学校を休む女子学生が多くまた月経に関する知識などを母親や学校からも教えてもらえず自分で堪えている子どもが多い。その上、生活上の制限がかけられる習慣がある。女子学生がまず安心して学校生活を送れるように布ナプキンを作成し、そして自分たちの体の事を正しく理解するために性教育を現地の助産師等の協力を得て実施。その為の教本を日ネ両方の大学生が協力しながら完成させた。今後、多くの学校に広めていく予定。

●中華人民共和国

アナディアル病院支援事業

【新疆ウイグル自治区】

距離や経済的理由から今まで医療を受けることができなかった農村地域の貧しい人々の医療環境改善を目的に2007年に設立。今まで病気になっても治療を受けることができなかった人々が、一人でも多く医療を受けられるよう支援を予定していたが、現地事情により次年度におこなうこととなった。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワークAFSの各

I. 開発支援事業

I-D. 環境事業

1. 植林・水源涵養林養育

気候変動が、ますます、環境、経済、社会に大きな影響を及ぼしている。持続可能な社会に向けて、災害や環境破壊から地域の回復力（レジリエンス）強化においても、環境保全が当たり前のようになってきた。本会が活動する農村の人々も気候変動により農作物の収穫量が減少していき、農業を捨て、都市部への労働移住に拍車をかけている。都市部への人口集中により、車移動による排ガスなどがさらに増加し、環境汚染悪化の道をたどる一方である。

これらを防ぐためには、幼い頃から自然環境が自らの社会にもたらす影響を教育や啓発を通して学び、自然を守る心を育て、環境保全を実践していかなければならない。

2017年度は、ネパール、インドネシア、フィリピンにて植林が行われ、地域の人たちから多くの参加を得ることができた。これらをきっかけに更なる地域の人々の植林に対する参加と地域から環境を変える思いを持った市民が生まれることが期待される。

(1) 植林

(2018年3月現在)

国名	2017年度植林	累積
インド	-	712,205
インドネシア	3,000	203,960
カンボジア	-	18,000
スリランカ	-	675
タイ	-	20,500
中国	-	1,105,525
ネパール	630	300,654
パキスタン	-	4,560
フィリピン※	25,000	140,315
バングラデシュ	-	26,500
	28,630	2,532,894

※フィリピンマングローブ植林は貧困対策事業として実施。

●インドネシア

HOSANNA 植林 3,000本

【北スラウェシ州タリセ島エアバヌア村】

北スラウェシ州の孤島タリセ島は、人口 570 人（160 世帯）が住んでいる。この村の唯一の小学校は、北スラウェシ州の中で最も清潔できれいな学校として認知されている。その生徒たちと村の代表者を中心に、エアバヌア村の環境保全啓発と植林を実施するために、日本からワークキャンプにて参加者を集め、植林（エボニー）を 3000 本植林した。今後は、植林だけでなく、村の清掃活動やエコトレッキング、果樹などの植林を通して、環境保全と村の生活改善に努めていく。

※イオンリテールワーカーズユニオン アセアン交流セミナーにおいて本事業を実施した。

●ネパール

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 500本

【バグマティ県バクタプール郡スダール村】

地域住民の手による環境保全を目的とした植林活動を、引き続き実施。FUG（フォレストユースグループ）はコミュニティフォレストとして地域の森作りを実施している。特に 40 年以上前に植えられた松が森の発展を阻んでいるために植え替えをして、森の機能の復活を計画。環境セミナーで集まった学生や近隣の学校がグリーンスカウト活動の一環として携わり、水源涵養林やロプシーと呼ばれるネパール自生の実がなる木の植樹を実施。

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 130本

【バグマティ県シンドウパルチョーク郡バテシバ村】

地震により住居地の草木なども多く倒壊してしまった中、ようやく家が完成し、暮らしを取り戻そうとしている地域に住環境整備と土砂崩れを防ぐために植林活動実施。レモンやグアバなど住民の食生活を支える樹木を選び植林を実施した。環境の変化による住民の環境意識の変化も狙っている。

●フィリピン

AFS-Virac, Catanduanes パロンバネス島植林プロジェクト

【カタンドゥアネス州カラムラン町トイトイ村パロンバネス島】

焼畑、森林伐採の影響で木々が少なくなったため、表土の侵食、サンゴ礁の破壊、飲料水の不足、海の汚染、魚の減少等が問題となっているパロンバネス島では 10 年間植林を支援してきた。

村人(特に子ども達)の手によって木々への水やり、メンテナンス、苗木作り、植林等は継続しておこなわれている。予定していた日本からの支援は実施しなかった。

2. 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト(GS)運動とは「Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986 年に本会が提唱。アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFS の海外ネットワークを通じて 16 カ国にて展開。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることが目的としている。本年度もインド、ネパールにて、環境保全啓発のための運動やセミナーが行われた。

●インド

HDSI グリーンスカウト運動支援 1校

【マハラシュトラ州アムラワティ県チャンドラバザール地区】

チャンドラバザール地区は、アムラワティ県においても農村と都市部を結ぶ橋として知られており、昨今はアムラワティ県中心地の経済開発により、農村部の移住者が、チャンドラバザール地区に居住するようになり、一部はスラム化していき、ますます環境が悪くなってきた。HDSI は、チャンドラバザール地区にて小学校(英語を言語とする)を運営しており、ここの子どもたちと共に毎月 1 回、グリーンスカウ

I. 開発支援事業

ト運動として、清掃活動や園芸、環境保全劇などを実施している。
2017年度も子どもたちとともに、上記の活動を継続して行った。

●ネパール

AFS-Nepal 小学生環境セミナー

9校

【バクタプル郡、カブレ郡トクチャ村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシ郡ピトゥリ村、シンドウパルチョーク郡ボテシパ村】

GS活動を行う小学生対象の環境セミナーを8月に合同で実施し、12月には、現地の交通事情（道路建設による渋滞の慢性化）に伴い、3ヶ所に分けて実施。8月の折には、エネルギー環境に関して特に注目し、身の回りのエネルギーについて学ぶと同時にネパールの特別なエネルギーであるバイオガスと木の関係を学び植林の大切さの理解と共に会場地域の森に植林を行い植樹方法に関しても学んだ。12月には特に地域環境について良い点、悪い点など自分たちの目と足で調べて絵におこし、良い点を維持するために大切な事、悪い点を改善するためにしなければならない事を自分たちで考え、今後の活動内容を考える機会とした。いずれの際にも持続可能な地域づくり（含 学校）を行うためにどのような行動が必要なのかを考え、最終的に目標をたて、実施していくため学校全体でシェアし合った。参加校＝スリーサント小（ピトゥリ村6地区）、ラズラトナ小（ピトゥリ村4地区）、ピトゥリ小（ピトゥリ村9地区）、ナウリン小（チュニケル村）、スウェットパルヒ小（トクチャ村）、マハンカル小（トクチャ村）、チャンデソリ小（ボテシパ村7地区）、サラソティ小（ボテシパ村8地区）、

※一部、ゆうちょ財団 NGO 海外援助活動助成にて実施

AFS-Nepal グリーンスカウト ローカルGS組織づくり

【カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシ郡ピトゥリ村】

農村開発プロジェクトを実施している地域において、村の青少年を中心としたローカルGSづくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。

ピトゥリ村GSは、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサント小、ラズマンディル小、ピトゥリ小の生徒と地域住民が協力して継続実施している。チュニケル村GSは、ナウリンセカンダリースクールの里子たちがその役割を担い地域清掃や河川清掃を実施し、環境保全活動を積極的に実施した。

3. 再生可能エネルギー資源活用・普及

●ネパール

AFS-Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業 24基

【バグマティ県バクタプル郡バグスワリ村・カブレバランチョーク郡トクチャ村・シンドウパルチョーク郡ボテシパ村】

資源が少ないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスの普及が、確実な燃料確保につながると同時に、人口増加とともに森林破壊が進み、その歯止めとし薪の代替燃料の確保が急務となっているため、複数年計画で実施している。2017年度は特に地震で住宅を再建したボテシパ村の人々がバイオガスを取り入れた環境を考えた地域づくりをめざすために本事業を実施し始めた。トイレの建設にも有効であると普及が進んでいる。環境保全と同時に農村に住む人々の生活改善（薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善、発酵後のス

ラリーは農業に欠かせない堆肥となる）にも大きく寄与している。効果として、1基の設置につき、薪の年間使用量と1世帯当たり4,000kgの使用量の内70～90%削減することができ、国土の30%台にまでに減少（以前は70%）した森林面積の回復にも繋がる。同時に普及セミナーの実施を行うと共に、トイレの併設も進み、農村地区での衛生向上にも繋がっている。今回の支援により年間の薪の使用量を3840kg、CO2を6トン抑えることができた。

【現在まで累計1,120基設置】 ※本事業は、ゆうちょ財団 NGO 海外援助活動助成にて実施



環境セミナーにて地域のために植林をする小学生(ネパール)



インドネシア タリセ島での黒檀の植林にて島の環境を守る活動



念願のバイオガスプラントの設置に喜ぶ村人(ネパール)

I. 開発支援事業

I-E. サイクル・エイド事業

1. サイクル・エイド

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう！」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

大阪府内の放置自転車の数は、年間50万台にのぼり、うち約半数は引き取り手がないために大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数が十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。

こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リユースの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。

2005年度より、本会が事務局として事業を実施。大阪府等がメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(1) 自転車の寄贈

◆自転車の提供 計634台

放置自転車を収集するために、府内各市町村へ協力の呼びかけを実施。今年度は下記の6ヶ所から協力を得ることができた。回収された自転車は各市で選別、修理、再生後に泉大津市にある堺泉北港へ運搬され、海上輸送された。

◆府内協力市及び台数

堺市 200台、八尾市 106台、泉佐野市 100台、
大阪市 100台、泉大津市 50台、府公園課 78台

今年度はタイに350台、カンボジアに284台、合計634台の自転車が寄贈された。事業開始以来、アジア、アフリカの10カ国に合計30,707台の自転車を贈ることができた。

タイ 350台

タイに贈られた自転車は、ラーチャブリー県の子どもの通学に加え、コミュニティワーカー、医療従事者の巡回、貧しい農民、病院（脚の手術をおこなった患者のリハビリ用）、環境保全の活動に従事する人々に手渡され、有効に活用されている。

ラジャットハット大学は、タイの伝統的な文化を学問としてまた実践を通して学ぶユニークな大学である。約8,000人の学生が在籍しているが、半数は貧しい家庭の出身であり、遠方から通う学生にとって、自転車は非常に大きな助けとなっている。自転車が手渡される前に、受益者には安全講習をおこない、メンテナンスも含め事故のないよう、指導がおこなわれた。

チョーンプン郡では今回の寄贈をきっかけに、NGO、地方行政、村人、学校の先生、保護者、地元有力者等による50名近くのメンバーを有するサイクル・エイド委員会を形成し、今後も人と環境に優しい自転車で地域の生活改善に取り組むこととなった。委員会がつくられたことにより、新たな地域のネットワークが形成され、情報を共有し地域の他の問題や、困難な状況にある人々を助

けるための新たなプロジェクトも立ち上がってきている。

3月15日～18日には国際交流プログラムがおこなわれ、国境を越えた様々な意見交換がおこなわれた。

	受益者	台数
1	ムーバンチョンプリラジャットハット大学	223
2	チョーンプン郡	50
3	クルラルンサリット学校	10
4	アヌバンチョンブン学校	5
5	バーンチョンブン学校	5
6	バーンノンカナック学校	5
7	バーンタラドクアイ	5
8	バーンランムアン学校	5
9	ブカエ学校	5
10	ノンクラティム学校	5
11	ワンクル学校	5
12	バーンブープライ学校	5
13	ノンサンチャオ学校	5
14	バーンノンブル学校	5
15	バーンブムグラジャドンブムルン学校	5
16	ハイタチャン学校	5
17	カオピントン学校	2

フィリピン 0台

現地の都合により、配布先がカンボジアに変更となった。

カンボジア 284台

カンボジアに贈られた自転車は、学校に通う子ども達や先生、地域のコミュニティワーカーや自転車を必要としている農民達に寄贈され、通学や仕事のために活用されている。

自転車の利用で地域の農民達が効率よい生活環境に変えていくことにより、女性の社会進出や生活向上へつながっている。また、勉強を続けたいが、家庭の経済状況のため毎日の通学や進学をあきらめていた小・中・高校生の子ども達に寄贈され、毎日安全に通学し、継続して教育を受けられるようになった。

自転車を受け取った子ども達や家族はとても喜び、より熱心に勉強をおこなうようになってきている。

自転車の寄贈は、公平により必要とされている人々に贈れるよう、政府、NGO、村の組織等で協力体制をとりながら、取り組んでいる。今回はプレイベン州ピーレアン郡メサプラチャン地区にある下記の村々に寄贈された。受益者の決定については各家庭を訪問し決定された。

	受益者	台数
1	メサプラチャン村	80
2	コンボントレア村	44
3	アンドウン村	40
4	ミーモル村	40
5	プレアック・チャンバ村	40
6	ヨート村	40

I. 開発支援事業

(2) サイクル・エイド関連国内プログラム

◆ サイクル・エイド支援会議開催・意見交換・事業報告会

日程:2017年6月22日(木) 場所:大阪府

参加者:10名

内容:寄贈先での自転車利用状況や活用方法について報告会をおこなった。現地で自転車が必要としている村の状況や子ども達を取り囲む環境についてより深く知ってもらえた。また、この事業から派生して環境保全の取り組みや、福祉環境の改善、地域の他の事業への協力体制も徐々に強まってきていることから、事業を継続しておこなっていくこととなった。

◆ 泉大津フェニックス野外コンサート

日程:2017年8月26日(土)、27日(日)、
9月2日(土)、3日(土)、10日(日)

場所:泉大津フェニックス

主催:泉大津フェニックス夏フェス17実行委員会事務局

来場者数:合計 約71,500人

<内容>

泉大津フェニックスが誕生した新しい町「夕風町」では、空と海、そして全面芝生という心地よい空間で、野外コンサート等各種イベントが開催されている。今年度は RUSHBALL2017、OTODAMA'17～音泉魂～、OSAKA HAZIKETEMAZARE FESTIVAL 2017 が開催され、多くの音楽ファンを魅了した。コンサート主催者の多大なる協力のもと、会場内のブースでサイクル・エイド事業の活動紹介とチャリティ出展をおこない、海上輸送への協力を得ることができた。

◆国際交流プログラム

【フィリピン料理教室】

日程:2017年4月11日(火)

場所:クレオ大阪西 参加者:14名

【タイ料理教室】

日程:2017年10月24日(火)

場所:クレオ大阪西 参加者:16名

内容:寄贈国の料理を通じて、楽しく身近にその国を理解できるよう、日本に住むフィリピン人を講師に迎え、料理教室をおこなった。参加者は家庭料理を学びながら、フィリピンの習慣や文化等についても話を聞き、プロジェクトの背景についても知ることができた。

【タイ 国際交流プログラム】

日 時:2018年3月15日(木)～18日(日)

場 所:タイ ラーチャンブリー県

参加者:約250名

内 容:自転車寄贈先であるムーバンチョンブリラジャットハット大学を拠点として自転車贈呈式典や行政・学校(教師・保護者・子ども)・農民等の村人達を対象に、現地提携団体とともに本事業の目的・目指すところ・事業内容等の紹介、説明をおこなった。

本事業に関係する様々な分野の協力者と意見交換をおこなうことで、今後の事業の必要性や進め方や取り組みについて話し合うことができた。また、地球や地域の環境保全について意見交換をおこない、次世代のために協力体制を組んで環境保全に取り組み、継続した活動をおこなっていくことを確認した。

また地球環境保全への意識を高めることで、同じ地球市民として

の視点を持ち、互いに協力しあう国際交流の推進活動を上げていくことが期待される。自転車を通じて、日本と各国の国際交流が活発になり、また、事業を継続することで人と人の絆が深まり、草の根の理解と協力の輪が広がってきている。

※この事業は競輪の補助を受けて実施しました。



タイ 国際交流プログラム



タイ サイクル・エイド委員会メンバーと意見交換



カンボジア 自転車贈呈式典には多くの村人が出席

I. 開発支援事業

I-F. ワークキャンプ・視察

1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

2017年度は、カンボジア、フィリピン、インドネシア、ネパール4カ国、11回のワークキャンプを実施、のべ195名が参加した。

1. 第41回イオン労連カンボジアワークキャンプ

期 間:2017年5月16日～5月20日

場 所:タケオ州トレン郡ロネアム地区トメイ村

参加者:29名

内 容:井戸建設、交流

2. フィリピンマングローブ植林交流キャンプ

期 間:2017年5月18日～5月23日

場 所:ソルソゴン州マトノグ町

参加者:10名

内 容:マングローブ植林、国際交流

3. 第42回イオン労連カンボジアワークキャンプ

期 間:2016年5月23日～5月27日

場 所:タケオ州トレン郡ロネアム地区クロントベア村

参加者:31名

内 容:井戸建設、交流

4. 第7回イオン九州労組・マックスバリュ中部労組

カンボジアワークキャンプ

期 間:2017年6月6日～6月10日

場 所:タケオ州トレン郡ロネアム地区ダウンパー村

参加者:21名

内 容:井戸建設、交流

5. イオンリテールワーカーズユニオン

第7期 第1回アセアンセミナー

期 間:2017年6月13日～6月15日

場 所:タケオ州トレン郡ロネアム地区プレイパーエイ村

参加者:18名

内 容:井戸建設、交流、商業視察

6. 10周年記念 イオンファンタジー労働組合

カンボジアワークキャンプ

期 間:2017年6月22日～6月26日

場 所:タケオ州トレン郡ロネアム地区ダウンパー村

参加者:10名

内 容:井戸建設、交流

7. イオンリテールワーカーズユニオン

第7期 第2回アセアンセミナー(インドネシア)

期 間:2017年9月1日～3日

場 所:北スラベシ州タリセ島エバヌア村

参加者:23名

内 容:植林、交流、商業視察

8. 第14回京都暁星高校ワークキャンプ(フィリピン)

期 間:2017年9月19日～9月26日

場 所:ソルソゴン州マトノグ町パグリラン村

参加者:8名

内 容:マングローブ植林、学校設備支援、井戸贈呈式、交流

9. 第43回イオングループ労連カンボジアワークキャンプ

期 間:2017年11月14日～11月17日

場 所:タケオ州トレン郡プレイスルック地区ソーチャン村

参加者:23名

内 容:井戸建設、交流

10. 第44回イオングループ労連カンボジアワークキャンプ

期 間:2017年11月21日～11月25日

場 所:タケオ州トレン郡プレイスルック地区プレスルック村

参加者:16名

内 容:井戸建設、イオン労連100基寄贈式典、交流

11. ネパール飲料水支援ワークキャンプ(Salus Aqua)

期 間:2018年2月28日～3月8日

場 所:シンドウパルチョーク郡

参加者:6名

内 容:井戸建設、交流

2. 海外プロジェクト視察

1. ネパール 支援事業視察

期 間:2017年4月27日～5月11日

場 所:バグワティ県内各地、シンドウパルチョーク郡ボテシハ村、バクタプール郡

派遣者:熱田典子

内 容:地震支援事業、バイオガスプラント支援事業

2. ネパール 支援事業視察

期 間:2017年7月24日～8月13日

場 所:バクタプール郡、カブレ郡、チトワン郡ゴイラコット、シンドウパルチョーク郡ボテシハ村カトマンズ周辺 他

派遣者:熱田典子

内 容:児童環境セミナー実施、地震支援事業、バイオガス支援事業、養蜂支援事業、教育支援事業視察

3. ネパール 支援事業視察

期 間:2017年10月29日～11月8日

場 所:シンドウパルチョーク郡ボテシハ村、メラムチほか

派遣者:熱田典子

内 容:支援事業

4. カンボジア 支援事業視察、ユースセミナー

期 間:2017年11月18日～11月20日

場 所:タケオ州

派遣者:横山浩平

内 容:教育支援評価視察、ユースセミナー

5. ネパール 支援事業視察

期 間:2017年12月24日～2018年1月10日

場 所:シンドウパルチョーク郡ボテシハ村、バクタプール郡ノールパラシ郡、

派遣者:熱田典子

内 容:プロジェクト視察、環境セミナー実施、

I. 開発支援事業

6. ネパール 支援事業視察

期 間：2018年2月16日～3月8日

場 所：シンドゥバルチョーク郡ボテシパ村、バクタプール郡

派遣者：熱田典子

内 容：バイオガスプロジェクト視察、バイオガスセミナー実施、
栄養補助食品配布、長浜北ロータリー現地視察等

7. インド 職業訓練学校建設実施

期 間：2018年2月20日～9月20日

場 所：カルナータカ州バンガロール県

派遣者：横山浩平

内 容：職業訓練学校建設、現場責任者として駐在
(平成29年度日本NGO連携無償資金協力支援事業)

8. タイ サイクル・エイド国際交流プログラム

期 間：2018年3月15日～3月18日

場 所：ラーチャブリー県チョーンブン郡

派遣者：橋本隆、徳田武志、徳田勇、岡本佳子

内 容：サイクル・エイド事業視察、国際交流等



通算100基目の井戸をワークキャンプで設置を終えたイオン労連の参加者とそれを喜ぶカンボジアの村人たち



水道パイプライン設置工事の穴掘りする参加者たち(ネパール)



支援地の家庭訪問をするワークキャンプ参加者(フィリピン)



戦後初めての日本上陸で友好の植林活動を実施したイオンリテールワーカーズユニオンの参加者の皆さん(インドネシア)



現地子ども達とマングローブを植林する京都暁星高校参加者(フィリピン)

Ⅱ．国際交流事業

Ⅱ．国際交流事業

Ⅱ－A．人材交流・育成事業

1．奨学金支援

各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金(奨学金等)を支援。

●フィリピン

ASI マニラ 1名
2016年度は、フィリピンのアジア社会科学院(ASI)にて行われている夏期の地域開発コース(2カ月間)に下記1名が、参加した。参加者は、JAFSの推薦を受け今後の活躍を期待され、このコースに参加が認可されたものである。

- 柿島 裕(日本、現 JAFS 事務局次長)

本コース終了後は、日本で7年ぶりに開催され、アジア各国から70名を超える参加者が集った「アジア国際ネットワークセミナー」の運営をはじめ、法人賛助会など、主に会員活動の拡大・充実を中心とする活動に従事している。

●インド

AFS-Nagpur マハラシュトラ州ナグプール県 1名
2014年度に急死した、AFS ナグプールの代表であるフィリップ・パランジャペ氏の意志を受け継ぎ、貧困層の子どもたちの医療に貢献できる看護師を目指す、長女リニ・パランジャペに対して、看護学校最終年の奨学金を支給した。2019年2月に卒業予定。

- リニ・パランジャペ(インド、AFS-Nagpur)

2．海外ボランティア研修制度

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成を行う制度として2000年より実施。2017年度は、本研修への直接の応募はなかった。



アジア国際ネットワークセミナーのフィールドスタディー



フィリピン地域開発コースで学ぶ柿島氏地域開発コースにて(卒業式)



看護師の勉強をしている奨学生のリニさん(左)



第5回アジアユースサミットの参加者

Ⅱ－B．ネットワーク推進事業

1．国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

第 27 回アジア国際ネットワークセミナー

開催地：大阪・奈良(青少年野外教育センター)・京都(美山)

期間：2017 年 10 月 17 日～21 日

参加国：インド(13)インドネシア(4)カンボジア(5)スリランカ(5)タイ(15) 中国(1)、ネパール(2)、パキスタン(2)、バングラデシュ(4)、フィリピン(16) マレーシア(2)、ミャンマー(1)ベトナム(1)日本(40)

参加者数：111 名

基本テーマ：

貧困なき一つのアジア共同体を目指して
～アジアに理解と協力と連帯の輪をひろげよう～

テーマ：

グローバル時代における地域経済と地域文化の
存続をめぐる

内容：

- 開会宣言：萩尾 千里(JAFS 代表理事)
- 開会挨拶：湯川 剛(JAFS 副会長)
- 開催趣旨：村上 公彦(JAFS 専務理事兼事務局長)
- 基調講演：
「持続可能で豊かな地域づくりのための女性の貢献とリーダーシップ」
三輪 敦子氏、一般財団法人 アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)所長
「インドの少数民族居住区における女性の現況と自立に向けた取り組みについて」
Dr. Dilip Barsagade(ディリップ・バルサカデ)、Society for People's Action in Rural Service and Health(SPARSH)代表
インド・ヒュールアンベダカール社会学大学 教授
- 活動報告：参加 AFS チャプターおよびユース活動報告
- 分科会：総合テーマ アジアにおける持続可能な村づくり
 - ① 貧困と地域開発(ファシリテーター Pramod Thorat, インド President, HDSI)
 - ② 貧困と地場産業の育成(ファシリテーター Padam Shrestha ネパール Chirperson, AFS-Nepal)
 - ③ 貧困と教育(ファシリテーター、Antony Kunnath, インド、Executive Director, Planet Kerala)
 - ④ 貧困と環境(ファシリテーター、Generosa Condez, Neri Rectra、フィリピン、AFS-Pandan)
 - ⑤ 貧困と若者(ファシリテーター、Ravindra Kandage, スリランカ、Executive Director, Sarvodaya Santhi Sena)

●フィールド研修：

過疎地から地域開発(京都市南丹市美山町)

- ・美山町かやぶきの里訪問(観光ガイドボランティアにおける解説)
- ・美山町の観光開発において、美山まちづくり委員会の山田委員長からその過程の説明
- ・美山町の有機ミルク工場、有機ハムソーセージ工場の訪問

●全体会議：

アジアの貧困層への共通支援基金「アジア夢基金」への提案事項

ファシリテーター urapong Pukdee, タイ、AFS-Lanpang

現在のアジア夢基金の 2016 年度の収支報告、2017 年度収入を発表。分科会にて発表された、各事例から発展した企画をプロポーザル化し、無償資金協力もしくは、融資協力していくことを決めた。リスクヘッジのために基金保有額を 1.5 倍増やし、増加分に関しては、使用せず、貯蓄していくことを決定した。その他、宣言文採択のために美山における取り組みのまとめを話し合った。

第 27 回アジア国際ネットワークセミナー宣言文：

- (1) 貧困は教育の不足、社会・経済・政治的不平などによって引き起こされる。良い教育を実現することこそが、地域と全世界から貧困をなくすための根本である。教育は、生活の技術(手に職を持つこと)を向上させ、地場産業を育て、よりよい社会や環境と作りだし、若者の能力を開発するのに役立てられるべきである。
- (2) 村は持続可能な資源や文化に富んだ貴重な存在である。年と農村のつながりを密接にするためには、消費者と生産者の連携が必要であり、エコツーリズム、フィールドスタディなどの発展によって村を支援できる。地域の文化と資源は、母なる自然を壊すことなく、豊かにできる。地域興しに村人の積極的な参加は欠かせない。
- (3) 以上のことを実行するために、①貧困と地域開発、②貧困と地域産業の育成、③貧困と教育、④貧困と環境、⑤貧困と若者の 5 つの実施機関を本会の現地提携団体にて設ける。

以上の発表により、第 27 回アジア国際ネットワークセミナーが閉会した。以上のことを実行するために上記の 5 つのテーマ別の分科会を設け、今後具体的に実施していくことになる。

Ⅱ. 国際交流事業

(2) 国際ネットワーク機能強化事業

国際ネットワークの機能強化を図るために、国際ネットワーク事業調整機関(AFS/ICO)の調整員としてフィリピン、インド、タイにスタッフを配置し、ネットワーク活動に関する広報・啓発、情報共有を行った。

(3) アジア・フレンドシップ夢基金

当基金は AFS/ICO(国際ネットワーク事務局)の事業の一環として本会のアジアにおけるネットワークの求心力を高めるために2008年に設立された国際基金。現在アジア8カ国の各部会が任意に参加している。

国際基金は2010年から本会で夢基金という名目で募金世話人会が発足。募金のための世話人会(代表 坂口久代理事)を設けて国際基金募金に協力している。2017年度は6月、3月に世話人会例会を持った。2017年度募金高は218,550円。

なお、国際基金管理委員会(委員長 T・プラモド、8カ国12人の委員)は毎年一回会合をアジア国際ネットワークセミナー(AINS)に合わせて開いている。

(4) アジア・ユースサミット (AYS)

事業名 第5回アジア・ユースサミット

第5回テーマ「地域をよくするプロジェクトを創ろう」

～経済、環境、文化がいきるまちづくりを目指して～

事業期間 2017年8月17日～22日

事業場所 泉佐野市立文化会館エブノ泉の森ホール(大阪)

奈良市立青少年野外活動センター(奈良)

大阪府立男女共同参画・青少年センター(大阪)

事業の目的・概要

2017年8月17日から22日の期間、持続可能な地域社会づくりに一翼を担う、日本を含めたアジアの若者のリーダーの育成とリーダー間のネットワーク構築を目的として、第5回アジア・ユースサミット(以下、第5回AYS)を開催した。第5回AYSは、前回と同テーマを「地域をよくするプロジェクトを創ろう!～経済、文化、環境がいきるまちづくりを目指して～」として、アジア各地の高校生、ボランティア総勢261名が一堂に集い、5泊6日の合宿形式の国際会議を実施した。

参加者数 合計 226名

日本 48名(参加者高校生引率教諭を含む)

海外 34名(アジア11カ国から)

ボランティア、ゲストなど:144名

事業内容

8月17日 プレゼンテーションプログラム

8月18日 プレゼンテーションプログラム

8月19日 グループディスカッション

キャンプファイア

8月20日 フィールドスタディ

グループディスカッション

8月21日 グループディスカッション

全体会議、宣言文作成・採択

フェアウェル交流パーティ

8月22日 アジアカルチャーパフォーマンス

宣言文発表

終了式

●プレゼンテーションプログラム

8月17日、18日、日本国内9校10カ所、海外(アジア中心に)11カ国13地域から参加し、自らが企画立案した「地域を良くするプロジェクト」が発表されました。各参加者には10分のプレゼン時間が与えられ、それぞれがパワーポイントを駆使し、写真やイラストなどを交えた構成にて発表を行った。

●グループディスカッション

日本10グループ、海外11カ国13地域の参加者を7グループに分け、グループディスカッションが行われた。プレゼンテーションにて立案したプロジェクトの共通の課題と解決方法を宣言文(Action Statement)として採択することを目標に、SDGs 持続可能な開発目標の17目標をグループディスカッションにおける議論の共通の課題・目標に設定し、話し合いが行われた。SDGsを共通の課題と目標に設定したのは、多くのプロジェクトは、国、地域、社会背景、言語が異なる。共通でわかりやすい目標設定をしないと、議論が進まず、混乱が生じるために、SDGsを導入した。これにおいては、ファシリテーション専門の一般社団法人ソーシャルギルドの山本佳史氏が総合ファシリテーターとなり、議論が円滑に行えるよう、ガイドラインを示した。アイスブレイキングに始まり、グループにおける役割認識と尊重、議論の方法などを説明したあと議論にうつった。

加えて7つに分かれたグループには、海外のコーディネーターおよび日本の大学生、通訳がグループディスカッションの支援者として加わり、参加高校生を支援した。通訳が入り、言葉や社会的背景の異なりからの細かなズレの修正をおこなった。しかしながら、異なる社会的背景からくるプロジェクトからの共通の課題と解決方法を宣言文にてまとめることは、とても困難な作業だった。「貧困」という言葉でさえも「絶対的貧困」と「相対的貧困」の違いからその説明をしながら議論をしていかなければならず、終始説明だけに多くの時間を費やすグループなどもあった。

また、「子どもの教育と生活環境の改善」が共通目標にも関わらず背景や手法が異なるために、議論が行き詰まるなど、困難な作業であったが、無事違いを乗り越え、各グループがディスカッションのまとめを発表することができた。

●フィールドスタディ

8月20日、合宿所から約2時間離れた、奈良県東吉野村(人口約1660人)をフィールド研修地として訪問した。参加高校生たちに持続可能な地域づくりに向けて、計画、実行、評価の手段を具体的に理解するために、過疎化から地域の再生を目指している東吉野村をフィールド研修地として選択した。

大阪から東吉野に実際移住し、現在商業デザイナーのオフィスキャンプの坂本大祐氏に事前に、東吉野村の過疎化からの再生に向けた、氏の仕事や生活の状況、同じ移住者の仕事や村での取り組み、人とのつながりなど詳細な報告を受けた。

東吉野村の村議会、森林組合の方々から歓迎を受け、村長の水本実氏からは、村の過疎からの再生に関する様々な取り組みの講演が行われた。その後、移住者のお話や、様々な取り組みが行われている場所を訪れ、担当者からの説明を受けた。その後、村の高見川の清流を楽しみ、自然の中での参加者同士の交流の機会を育んだ。

Ⅱ. 国際交流事業

日本の過疎化や人口減少の問題は、海外参加者(特に経済的に急成長の段階でありながら、人口増加の問題を抱えているアジアの国出身)にとっては、非常に理解が難しい問題ではあるが、経済が発展していくことにより、人が人を生み、育てる機会や経済的余裕がなくなり、人モノなどの資源がアクセスの良い主要都市に集中し、人口減少や過疎化が起こることを理解する機会になった。また、なぜ本事業において「地域をよくするプロジェクト」と称して、地域を見直し、持続可能な社会を目指して、今の世代の若者が何をすべきかを改めて考える機会になった。

事前の坂本氏の講演、東吉野村移住者からの具体的な取り組み、森林組合や村長からの報告は、「地域を良くするため」の様々な工夫が、今後、自らの地域をよくするプロジェクトを実践していく高校生たちの良きヒントになった。

●アクションステートメント(宣言文)

7グループに分かれて議論されたグループディスカッションの中から各グループ1名のリーダーをだし、アクションステートメント(宣言文)にまとめる作業が行われ、下記の通りとなった。

「私たちの持続可能な社会をめざして」

- 交流: 地域社会の様々な人と交流をはかることで、地域の持続可能性が育まれます。社会の中で良好な結びつきをつくるためには、地域における充実した交流と協力が必要です。
- 教育: 質の良い教育が、経済成長の達成につながる充実した交流をもたらします。私たちは、見参奈環境のためになすべきことに関する知識と知恵を得、その環境をまもってゆけるよう配慮します。
- 健康: 優れた健康・衛生教育は、多くの病気を防いでくれます。持続可能な社会づくりには、まず私たちが皆、心身ともに健康かつ幸せであることが不可欠です。
- 平等: 私たちは、性別・人種・性的区別・障がい。国政などにかかわらず、雇用における不平等などをなくします。
私たちは、これらを成し遂げることで貧困を減らせます。このようなアクションの継続により持続可能な社会を実現します。

(以上が宣言文)

●カルチャーパフォーマンス(日印友好ユース舞踊/民謡ソロパフォーマンス)

8月22日、第5回AYSの最終日に会場を奈良から大阪のドーンセンターに移し、カルチャーパフォーマンスが行われた。海外からインドを中心に10グループ、日本から3グループからのパフォーマンスが披露された。特別ゲストの神戸学院大学附属高校書道部の書道パフォーマンスの披露を皮切りに、春日丘高校参加者による合気道、松原高校伝統のソーラン節、インドからマハラシュトラ州ガッチロリ県の少数民族に伝わる神に捧げる舞踊や歌の披露などが中心に行われた。その他、スリランカのタミル族に伝わる伝統舞踊、カンボジアのグループダンス、タイの刀剣劇など、それぞれの国の特徴が垣間見える時間だった。最後に各参加国・学校から発表された「地域を良くするプロジェクト」に対して、オーディエンス賞(プレゼン当日の参加者の投票)、優秀賞(実行委員会が選択)の発表と認定書が渡され、第5回アジア・ユースサミットは閉会となった。閉会后、簡単な夕食会を行ったが、別れを惜しむ多くの参加者の涙は、このプログラムの充実度を表していました。尚、本パフォーマンスは、外務省の日印友好年記念事業として認知された。

助成:平成29年度外務省 NGO 事業補助金

独立行政法人国際交流基金地域リーダー・若者交流事業
公益財団法人三菱UFJ国際財団

後援:文部科学省、外務省、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県
大阪市、堺市、京都府教育委員会、奈良県教育委員会、兵庫県教育委員会、大阪市教育委員会、奈良市教育委員会、公益財団法人大阪府国際交流財団、関西 NGO 協議会、ワンワールドフェスティバル for Youth 運営委員会

2. 国際体験交流(スタディーツアー等)

アジアにおける本会海外プロジェクト視察や、アジアの現状に対して足を運び実感するスタディーツアー等を通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。

2017年度は、3カ国20名が、スタディーツアーに参加。

フィリピン・スタディーツアー(フィリピン)

期 間:2017年5月23日～5月26日

場 所:マニラ市サン・アンドレス、カビテ州パリアパン、ボリナオ

参加者:5名

内 容:ストリートチルドレンの教育支援事業視察・交流

スリランカ・スタディーツアー(スリランカ)

期 間:2017年9月1日～9月6日

場 所:スリランカ

参加者:5名

内 容:AFS スリランカ発会式、井戸視察、交流

ネパール・スタディーツアー(ネパール)

期 間:2017年10月29日～11月4日

場 所:ネパール

参加者:4名

内 容:「JAFS ネパール」開所式、プロジェクト視察

ネパール・ヨードを支える会 スタディーツアー (ネパール)

期 間:2018年2月7日～2月17日

場 所:カトマンズ、バクタプル郡、シンドゥルパルチョク郡 等

参加者:6名

内 容:支援事業視察、会議、交流



ネパールスタディーツアーにて支援実施校の子ども達との交流をはかる本会理事及び監事

Ⅱ．国際交流事業



アジアネットワークセミナー開会式



アジア国際ネットワークセミナー分科会の様子



アジアネットワークセミナーの参加者



アジアユースサミットのグループディスカッション後の発表



分科会の発表



SDGsについて学ぶ参加者たち(アジアユースサミット)

Ⅱ．国際交流事業



村の環境保全に取り組むグループ(フィリピン、スタディツアー)



貧困地域での有機農業への取り組み(フィリピン)



地域活動推進キャンペーン(インド)



始業式で教科書配布(インド日印学園)



里子たちへのオリエンテーション(カンボジア)



マイクロクレジットの村の運営会議(カンボジア)

海外提携団体 AFSネットワーク

(18ヶ国 69団体 日本除く)

提携団体 (略称)	管理責任者	所在地	活動
1 インド			
1 BSVIA	N. クンバール	カルナータカ州ビジャヤプーラ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
2 EDCI	M. サンディシュ	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策、環境
3 ISSA	J. ザカライヤ	マハラシュトラ州プーネ	水、子ども、貧困対策
4 AFS Kolkata	A. バナジー	西ベンガル州コルカタ	水
5 SSH	B. セルヴァラージ	タミルナドゥ州ディンディガル	水、子ども、災害復興
6 RUDYA	D. カシナート	マハラシュトラ州ガッチロリ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
7 HDSI	T. プロモート	マハラシュトラ州アムラワティ	水、環境
8 JVK	アショク・トッポ	オリッサ州ブバネシュワール	災害復興
9 AMS	A.P. ポール	タミルナドゥ州マバルワペタイ	水、貧困対策
10 Don Bosco Asyalayam	Fr. ジョージ	デリー	子ども
11 Runa	ピーター・ペロ	ナガランド州コヒマ	水
12 AFS-Nagpur	P. ビシャール	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策
13 AFS-Akola	D. ダンラジ	マハラシュトラ州アコラ	環境
14 AFS-Rural Gacchiroli	D. パルサガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
15 AFS-Gadchiroli	P. ソンタッケ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
16 AFS-Saoli	B. アレワール	マハラシュトラ州チャンドラプール	貧困対策
17 AFS-Aramori	M. ヘポット	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
18 AFS-Chhattisgarh	S.H. パッタン	マハラシュトラ州チャティスガー	貧困対策
19 AFS-Sanguli	クムディニ・ナシュテ	マハラシュトラ州ソラプール	子ども、貧困対策
20 AFS-Latur	ラジ・マホール	マハラシュトラ州ラトール	子ども、貧困対策
21 AFS-Bangalore	カムレ	カルナータカ州バンガロール	子ども、貧困対策
22 IJSDC	ニック・イクバル	カルナータカ州バンガロール	人材育成
2 インドネシア			
23 HOSANNA	E. サントサ	バリ島ケロボカン	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
24 AFS-Aceh	サラ・ジュマリア	アチェ州	環境、災害復興
25 AFS-Jakarta	B. ラバン	ジャカルタ	水、貧困対策、環境
26 Dhyana Pura 大学	マデ・ニヤンドラ	バリ島クタ	国際交流
3 韓国			
27 公州大学校産業科学大学	ユン・ジュン・サン	忠清南道礼山	国際交流
4 カンボジア			
28 KAFS	ロン・チョーン	プノンペン	水、子ども、貧困対策
5 シンガポール			
29 AFS- Singapore	エドワード・オング	シンガポール	国際交流
6 スリランカ			
30 SARVODAYA	A.T. アリヤラトネ	モラトゥワ	水、環境、貧困対策

7	タイ			
31	VITAL	K.スリサン	コンケン県マハサラカム	貧困対策
32	TAFS	ニラン・チャンタ	バンコック	子ども、国際交流
33	FON	サック・ノスリ	ナン県	子ども、貧困対策
34	ELF	チャイチェン	チェンマイ	国際交流
35	AFS-Chang Mai	チャイワット	チェンマイ	国際交流
36	AFS-Lampang	スラポン・プクディ	ランパン	環境
37	AFS-Udontani	サン・セン	ウドンタニ	国際交流
8	中国			
38	CHAFS	羅 紅光	北京	子ども、環境
39	AFS Hong Kong	調整中	香港	国際交流
40	AFS Uighur	ユスフ・エム・デオラ	ウルムチ	貧困対策、国際交流
9	ネパール			
41	HARD	S.マナダール	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
42	AFS-Nepal(GreenScout Nepal)	ラジャン・M・マツラ	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
10	パキスタン			
43	PAFS	C.H.ナディーム	イスラマバード	水、子ども、災害復興
11	バングラデシュ			
44	AFS-Bangladesh	S. チョウドリー	チャンドラゴーナ	水、貧困対策
45	AFS-Dhaka	M.フェローズ	ダッカ	水、子ども、貧困対策、環境
46	AFS-Chittagong	I.チョウドリー	チッタゴン	国際交流
47	BDP	アルバート・マラカル	ミルプール	水、子ども、貧困対策、災害復興
48	AFS-BIWM	ムンスール・ラーマン	ダッカ	水、子ども、災害復興
12	フィリピン			
49	KALIPi	エロイサ・クナナン	ヌエバエシハ州サンレオナルド	水、貧困対策、環境、災害復興
50	AFS-Pandan	ネリ・サラビア・レクタ	アンティーク州パンダン	水、子ども、環境、貧困対策
51	AFS-Virac,Catanduanes	ランド・グロバット	カタンドゥアネス州ビラク	水、環境、災害復興
52	AFS-Manila	マラガ・アマンテ	マニラ市	国際交流
53	AFS-Zamboanga	エメリタ・バシリオ	南サンボアンガ州サンボアンガ	国際交流
54	Asian Social Institute	ミーナ・ラミレス	マニラ市	子ども、貧困対策、環境、災害復興
55	AFS-Davao Oriental	レイナルド・ギタカイ	東ダバオ州ダバオ・オリエンタル	国際交流
56	AFS-Ibajay	エミリー・アランゴテ	ア克蘭州イバハイ	子ども
57	AFS-South Antique	ビクター・デ・グラシア	アンティーク州サンホセ	子ども
58	AFS-UMD	ジーナ・ヤップ	ソルソゴン州マトノグ	子ども、環境、貧困対策
59	AFS-Antique	ジェネロサ・コンデス	アンティーク州	貧困対策、環境
60	AFS-Guimaras	ヴィック・デ・グラシア	ギマラス州	環境
61	AFS-Kabankalan	エライザ・ベルナオーラ	西ネグロス州	環境
62	AFS-Tacloban	ロウェナ・ロセ	レイテ島タクロバン	貧困対策、災害復興
13	ベトナム			
63	VAFS	ルー・バン・ロック	ホーチミン	貧困対策、子ども
64	Cantho 大学	ドン・バン・ニー	カントー	貧困対策

14	マレーシア			
65	AFS-Malaysia	リム・チャイ・ホン	ベナン	環境、災害復興
15	ミャンマー			
66	MAFS	ヤム・コーパウ	ヤンゴン	水
16	モンゴル			
67	MoAFS	エンフトヤ	ウランバートル	貧困対策
17	ラオス			
68	LPRYU	ワンベン・クンボーライ	ビエンチャン	水、子ども
18	アフガニスタン			
69	AAFS	ラハマト	ジャララバード	貧困対策



第27回アジア国際ネットワークセミナー 開会式（日本・大阪）



AFS スリランカ発足式 スリランカ各地よりメンバーが集結



ネパールにおける JAFS 活動拠点事務所開所



間伐材利用での作成品の販売より水支援につなげる活動を継続してきた大安中学校テクニカルボランティア部へ感謝状を贈呈



第 5 回アジアユースサミットの参加に向けてプロジェクトの中間報告を行う高校生



JAFS での研修を終えその成果発表を行う大学のインターンシップ生



第 7 エリア 竹送りウォークソン



吹田地区 万博散策ウォーク



スタディツアー 現地での心あたたまるお出迎え

Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業

Ⅲ－A. 災害等罹災者支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1) 日本 熊本地震

JAFS 熊本地震被災者支援

【熊本県上益城郡益城町】

2016年4月に震度7、震度6強の前震、本震が熊本県、大分県を襲った。震災直後から、避難所を中心に炊き出しや物資配布など、2016年度の4次にわたる支援に引き続き、5つの仮設団地にて、孤立化・孤独死などが懸案となっている独居高齢者に対して、見回りと自治会の自主企画プログラムにより、回避する活動と、移住した人々が安心して生活送れるよう、住民同士のコミュニティ形成活動を実施した。

●第四次支援：益城町の仮設団地における独居高齢者に対する見まわり支援および自治会活動支援事業

活動期間：2017年1月20日～7月18日終了

活動内容：仮設団地見まわり支援、自治会自主活動支援

受益者数：約268世帯(内56世帯の独居高齢者)

事業概要：

本事業は、仮設住居に移住後、孤立化・孤独死などが懸案となっている独居高齢者に対して、見回りと自治会を通して自主企画プログラムにより、孤立化・孤独死を防ぐことを目的により実施された。

◇仮設団地見まわり支援

益城町の5仮設団地(小池島田、東無田、惣領、櫛島、安永東)の高齢者を対象に月5回の見回りと週4-5回の自治会長への状況聞き込みの調査により、高齢者76世帯の孤立化を防いだ。

◇自治会活動円滑化支援事業

・益城町の5仮設団地において10日に1-2回の頻度にて、高齢者を対象にしたカフェ、手芸教室や合唱会、料理塾などのプログラムが開催され、毎回2-3名の独居高齢者が参加した。

・これらの支援プログラムをきっかけに、手芸教室と男の料理塾は自主活動プログラム化し、自主的に高齢者への声かけなどがなされ、プログラムが継続された。

(ジャパン・プラットフォーム助成事業)

●応急仮設団地自治会コミュニティサポート業務

活動期間 2017年4月1日～2018年3月31日

活動内容 ・自治会・仮設住民自主企画のコミュニティづくりに係るプログラムサポート

・仮設における他機関の受入企画サポート

・入居者の相談、サポート

・行政、自治会、サポートセンターなどの連絡調整

受益者数 約268世帯

事業概要

益城町の地震被災者が仮設住居に移住以降、各仮設団地には自治会長がおかれ、自治会長を中心とした自治会が、被災者の相談役、復興プログラムの調整役などを担っていた。しかしながら、

それらの調整により疲労が重なり、限界がきていた。

そこで、益城町からNGOやNPOが代わりに連絡調整役やサポート役を担うよう委託があり、本会は、仮設団地5カ所(小池島田、東無田、櫛島、惣領、安永東)を請け負うこととなり、各仮設団地への他機関プログラムの受入、連絡調整、住民の相談役、行政とのつなぎなどを実施した。

その他、ネパールから被災地支援の伝統楽器のクトゥンバ楽団が益城町を訪れ、チャリティコンサートを実施した。

この事業により、仮設団地5カ所の約268世帯が、困難なく、安心して生活を送ることができた。

2018年3月31日にて、上記5仮設団地の運営を後継団体に引き継ぎ、熊本の拠点を引き上げた。終了時には、自主活動グループへの今後の交流などの打合せをして熊本を離れた。次年度よりはスタディツアーによる交流を通して、現地を支援予定。

(熊本県上益城郡益城町生活再建支援課業務委託プログラム)

●2017年音楽と文化の交流フェスティバル IN 熊本県益城町

開催日 2017年11月18日

演奏者 ネパール古典楽器バンド・クトゥンバ
竹中真(ジャズピアニスト)
清水利香(サクソプレイヤー)

参加者数：50名

場所：第1公演 小池島田みんなの家

第2公演 公民館きやま座

地震により被災した熊本県とネパールを伝統楽器の演奏と交流を通して、相互の復興のためにチャリティコンサートを実施。被災者からの飛び入りでのハーモニカの演奏などもあり、交流を深めることができた。

協力：特定非営利活動法人(認定NPO法人)ピースウィンズジャパン／ネパールバンド・クトゥンバ公演実行委員会

(2) フィリピン マニラ東方台風

JAFS フィリピン台風被災地支援

【マニラ東方カタンデュアネス島】

現地の自主的活動にて復興活動が賄えたことにより、本会よりの資金支援は見送った。

(3) ネパール中部地震

AFS-Nepal ネパール中部地震被災者支援

【シンドウパルチョーク郡】

活動期間 2016年6月1日～継続支援

●生活支援

◇復興家屋建設(住宅再建)

地震により倒壊し、自力再建が出来ない低所得者の人々が安定した生活を早く取り戻すための住宅再建支援を実施。ブロック又は

Ⅲ. 生活支援事業

レンガを用いた耐震構造建築。1軒2部屋の全て同じ間取り。12軒の建設を実施し、受益者は安心で安定を目指した暮らしを取り戻せた。累計 49 棟の支援できた。

◇婦人会

今後の地域づくりの活性化のために「婦人会」を作り、地震時の行動や気持ちの共有から未来につなげる行動を皆で考え引き継いでいくきっかけづくりのために婦人会を昨年設立した。会議に出て避難時に気を付けることや地域環境づくりのために苗木を配布し各自の家で緑を育てる事への推進を実施したが、最終的に自らの運営を行っていくことを決めた会長はじめ役員が選出された。しかし、今後も見守っていく必要はある。

◇農業支援

今後の生活復興のために農業の活性化をめざし、地域の特産に物の発掘をめざした丹波の黒豆等農産物の試作を実施。干ばつが酷くなり、多くの品数での実施は難しかった。

●学校支援

◇校舎の再建

被災により倒壊した校舎を長期的に使用できる再建を 1 棟行なった。僻地で支援から取り残されている学校からの支援要請が多く寄せられたがその中でも交通の便が悪く、支援団体が全くない下記の学校に3年間で3棟の実施を行うことにした。

実施校:スリー ゴルメスウォリ ベイシック スクール

所在地:シンドゥパルチョーク郡メラムチ ジャミレ地区

●飲料水支援

◇水道パイプラインの設置

シンドゥパルチョーク郡では地震の影響により水源が枯渇または水位が下がっている。ボテンバ村の状況は大変ひどく、乾季の水量が最少の時期は緊迫した状況になっており、その状況は昨年よりも更にひどくなっている。何とか今ある水源で水が使えるように支援。根本的な改善については、山の裾を流れる河川から水をポンプアップしなければ一定量を確保できない。

実施地: I.開発支援事業 1. 井戸・飲料水供給 報告を参照

●物資支援

◇栄養補助食品配布

地震後の子供たちの栄養補給のために、乾燥黒豆を配布した。700 袋を 700 人に提供(3 日目支援) 内 500 袋は 2018 年 2 月に協力のフジッコ株式会社が現地視察を行い配布を実施。

協力:フジッコ株式会社

◇避難袋

今後の「もしも」に備えて、各世帯に避難袋の配布を開始し、活用方法の学びを開始した。計 1000 世帯対象とし今年度は 320 世帯に配布。昨年と併せて計 390 世帯に配布。来年度継続して実施していく。

●チャリティーコンサート

ネパールと日本のアーティストたちのネパールへの想いと共に、復興に努めるネパールの人々に思いを馳せて頂けることを願い実施。その中でも特に未来ある子どもたちが今の状況を立て直すために男女等しく教育をうけ、今後のネパールが力強い国になっていくための一助となっていくことを願い、加えて、この公演を通じてそれぞれの想いが繋がり合える国際交流の機会となるチャリティーコンサートを実施。

実施日時 :11 月 26 日 (日) 17時から

場所:大阪府立男女参画・青少年センター (ドーンセンター)

1F パフォーマンススペース

出演者:ネパール古典楽器バンド KUTUMBA

ジャズピアニスト竹中 真,サクソブレイヤー清水利香

主催:公益社団法人アジア協会アジア友の会

ネパールバンド・クトゥンバ公演実行委員会

協力:ネパールヨードを支える会

来場者数:150 名

(4) 日本 東日本大災害

JAFS 東日本大震災災害復興支援

【宮城県本吉郡 南三陸町歌津地区】

南三陸・女川を訪れる復興支援スタディツアー

震災から6年が過ぎたが、南三陸町・女川地区はいまだ復興段階にある。パナソニックグループ労連と共に、名取市にて植林活動と地域との交流を行った。本会が支援した「みなさん館」を訪れ、地元の方々とふれあい、地元の人々と汗を流すことで、復興していく現状や課題を知り、日本の災害や防災に対する意識をたかめていくことを目指したスタディツアーを実施できた。

(5) スリランカ洪水支援

SARVODAYA SHANTHI SENA スリランカ洪水被災者支援

【ゴール県/コロombo県】

2018 年 5 月 26 日発災。南西からのモンスーン気候による大降雨が、西部県、サバラガムワ県、南部県、中部県を襲い、河川が氾濫し、大洪水をもたらした。死者 208 人、行方不明 78 人、約 60 万人が家屋を失った。

SARVODAYA SHANTHI SENA は、被災直後から被災地全般に物資配布などの支援活動を展開した。ゴール県、コロombo県の下記の中学校の子どもたち 200 人に、リュックサックに、練習帳 12 冊、筆箱、鉛筆 4 本ボールペン 1 本、鉛筆削り、ランチボックス、水稻、スクールシューズをセットにして配布することができた。教材と靴の支援を行い、教育が滞らないよう支援した。

活動期間: 2018 年 5 月～6 月

活動地域: ゴール県/コロombo県

支援学校: ゴール県ウッガマ中学校(58 セットの文具と靴)

タワラマ中学校(92 セットの文具と靴)

コロombo県アチガラ中学校(50 セットの文具と靴)



学用品配布の様子(スリランカ)

Ⅲ. 生活支援事業



学用品を受けとり喜ぶ子ども達(スリランカ)



学校に通うことが出来るカバンを手にし喜ぶ子ども(スリランカ)



独居老人サポートのための黄色い旗活動(熊本県)



パソコン教室(熊本 益城町)



男の料理教室で完成した料理を楽しむ住民の方々(熊本県)



仮設住宅の見回り活動(熊本県)



カフェにて近況を聞きあう住民の方々(熊本 益城町)

Ⅲ. 生活支援事業



竹中真氏と清水利香さん、ネパールの国民的人気のKUTUMBAの協力で実施した益城町でのチャリティーコンサート



耐震構造で再建された家屋（ネパール）



避難袋の配布を受けた住民たち(ネパール)



地震がきっかけで立ち上がった婦人会の役員選出され、自立した活動へ発展(ネパール)



大阪でのチャリティーコンサート会場 ボランティアによる受付



名取市での植林活動で植えた桜(東日本大震災災害復興支援)

IV. 普及啓発事業

IV. 普及啓発事業

IV-A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) JAFSチャリティープログラム

2017 年度も、恒例になっている春と秋の JAFS チャリティーバザールを JR 住道駅前北側のデッキ広場で開催した。大東市の市報を通じて、参加者を募り、バザールだけでなく、本会の活動を知る機会を作った。その他、地元のミュージシャンやダンサーがパフォーマンスを披露し、それを楽しみに参加する人たちも増えた。

この他、昨年同様に本会の支援者、13 カ国の在阪外国人、一般参加者との交流を通じたチャリティーパーティ「アジア・チャリティフェスティバル」を開催し、チャリティ募金活動を実施することが出来た。

<春の JAFS チャリティーバザール>

日 時:2017 年 4 月 29 日(祝)10:00~16:00

出店数:22 店 (27 ブース)

ボランティア参加数:20 名

<秋の JAFS チャリティーバザール>

日 時:2017 年 11 月 5 日(日)10:00~16:00

出店数:20 店 (22 ブース)

ボランティア参加数:22 名

<アジア・チャリティ・フェスティバル>

日 時: 2017 年 12 月 9 日(土) 11:00~20:00

場 所: 大正区 大阪沖繩会館 参加者数:443 人

実行委員会 全 13 回 開催

(2) 国際理解教育講座

NGO が学校や団体の研修の場に入り、相互理解・協力をはかりながら人材を育てていくことを目的に実施している事業。2017 年度も NGO 活動を通じた学校や団体の国際協力参加について様々な講義・研修を行った。

NGO 講師派遣 【のべ 14 カ所、941 名】

- 4 月 9 日 久昌寺婦人会総会時講演 (45 名)
「JAFS の活動&アジアの女性の状況から見る支援活動の意義 ~ネパール大地震復興活動から見た女性の自立」
- 5 月 11 日 神戸ワイズメンズクラブ例会卓話 (15名)
「ネパール地震支援活動と課題」
- 5 月 25 日 枚方市立礎中学校 (200 名)
「ネパールの暮らしと学校の様子」
- 5 月 30 日 帝塚山学院小学校
「アジアの状況とこどもたちの暮らし」 (120 名)
- 6 月 14 日 神戸女学院 ボランティア論講師
「アジア協会アジア友の会の活動&南アジアの女

性問題とボランティア活動」 (111 名)

6 月 15 日 大精教看護専門学校 文化人類学
「国際理解授業」 (38 名)

6 月 18 日 NGO ネパール虹の家 総会時講演 (50 名)

6 月 22 日 大精教看護専門学校 文化人類学
「国際理解授業」 (38 名)

6 月 24 日 近畿ろうきん ぞうすいの会と NGO 勉強会
「JAFS の活動とアジアの現状」 (40 名)

7 月 13 日 大精教看護専門学校 文化人類学
「国際理解授業」 (38 名)

10 月 25 日 大阪国際大学 ボランティア論特別講師
「JAFS の活動&ネパールの地震支援と社会課題解決に向けた活動」 (76 名)

11 月 29 日 龍谷大学 国際 NGO 論特別講師 (40 名)
「水の問題と保健衛生~ネパールの事例から」

2018 年

2 月 2 日 大阪ロータリークラブ 例会卓話とフォーラム
「南アジアの女性の課題と持続可能な社会の創造に向けた NGO の役割」 (120 名)

3 月 8 日 京都生協東ブロックセミナー (10 名)
「いのちの水」

授業受け入れ 【2校 27名】

6 月 23 日 松原高等学校 国際理解授業(16 名+教員 1 名)
「世界の子どもの状況(児童労働、ストリートチルドレン)」グループ学習発表)

12 月 7 日 大手前高等学校 国際理解授業(集中セミナー)
(9 名+教員 1 名)
「NGO の現状と活動/私たちの暮らしと国際支援との相互性」

(3) 国際ボランティア啓発活動

6 月 日の総会時にあわせて海外プロジェクト報告会の実施。
その他、各地区にて支援事業の報告会などを随時実施。
又月 1 回のぞうすいの会にて報告を実施した。

(4) アジア文化理解講座

一般の人が国際協力を身近に感じられる催しを通じて、国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。

◆アジア家庭料理教室◆

2017 年度はアジア 13 地域のアジア家庭料理教室を行い、のべ 203 名の参加を得た。

会 場:クレオ大阪西 調理室
4 月 11 日 フィリピン 参加 14 名

IV. 普及啓発事業

	講師:ビーナ ジードル氏
5月16日	沖縄 参加17名 講師:上原スミ子氏、堀本美代子氏
6月20日	ネパール 参加21名 講師:シャルマ クルシュナ氏
7月11日	ベトナム 参加20名 講師:ガン氏
8月1日	中国新疆ウイグル自治区 参加17名 講師:ジャミラ ウライム氏
9月5日	イラン 参加14名 講師:ダリア アナビアン氏
10月24日	タイ 参加16名 講師:水野ブンルアン氏
11月14日	インドネシア 参加12名 講師:ワヤン スカルミニ氏
12月12日	中国内モンゴル自治区 参加14名 講師:劉偉氏
1月16日	広東 参加12名 講師:葉春蓮氏
2月20日	韓国 参加13名 講師:安 治永氏
3月6日	インド 参加18名 講師:ナゼマ トラバリー 氏
3月31日	スリランカ 参加15名 講師:ナディーシャ 氏

(5) 研修生・実習生受入プログラム

大学生インターンシップ及び実習受入 【3校 4名】

◆神戸学院大学 (1名)

「総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科 ヒューマンサービス実習」の受け入れと指導。1名の学生が15日間の実習をおこなった。主にアジアユースサミットでの実習をおこない、市民活動の内容を学び報告会をもって実習修了とした。

5月24日 実習オリエンテーション

8月15日～8月31日 実習期間

12月22日 実習報告会

◆大阪商業大学 (1名)

総合経営学部の学生が留学を得て帰国後、日本社会にて留学の経験を活かしたインターンシッププログラムの受け入れ

GET ゼミナール I・インターンシップ

10月4日 実習オリエンテーション(GET ミーティング)

10月16日～2018年1月16日 実習期間

◆近畿大学 (1名)

国際学部インターンシップ制度の受け入れと指導。1名の学生が2月6日より実習をおこなった。留学の経験を活かし、英語にてアジアの女性向け性教育テキスト作りを行った。実習期間中に仕上げ先ずネパールの学校で使用する予定。

11月22日 実習オリエンテーション

2月6日～2月15日 実習期間

◆JAFS インターンシップ制度

JAFS の人材育成事業としてのインターンシッププログラムに以下1名が参加し、NGO 活動を学ぶと同時に、JAFS の活動への理解を深める機会とした。

中村千風優(関西学院大学生) 9/1～3/20

(6) 法人関連プログラム

本会の長年のアジア現地における支援活動の蓄積と現地のネットワークを生かして、法人を対象に、アジア経済や地域開発の専門家などからのセミナーを行い、人材を育成するプログラム。2015年度から「国際貢献型グローバル人材育成プログラム」と題して、2017年度は合計3回のセミナーを行なった。

◆国際貢献型グローバル人材育成支援プログラム◆

1. 第5回国際貢献型グローバル人材育成支援セミナー&交流会

テーマ:これからはミャンマーがおもしろい!

ー信頼できる人間関係づくりをどう構築するかー

日時 2017年7月21日(金) 17:00-20:00

会場 北京料理 徐園

主催 JAFS 法人賛助会

後援 大阪国際フォーラム、公益財団法人大阪府国際交流財団、一般社団法人アジア国際経済交流センター

参加者 30名

内容 特別講演 ミャンマーとはどんな国?

～ミャンマーのお国事情&ミャンマー人の特性について～

講師 アビエーションインターナショナルジャパン(株)

代表取締役 砂田 純二氏

ゼネラルマネージャー 小川 モモウ氏

実例報告 京進(株)

執行役員 国際人材交流事業部 部長

藤井 孝史氏

2. 日本銀行大阪支店長を囲む会

日時 2017年8月30日(水)12:00-14:00

会場 ホテルアウリーナ 2階 バーラウンジ ラフィーネ

主催 JAFS 法人賛助会

参加者 21名

内容 関西経済の最近の動向とJAFSに期待すること

講師 衛藤 公洋氏

(日本銀行大阪支店 新支店長)

3. 日本台湾チャリティ晩餐交流会

～日本(関西)と台湾の現在と未来(主に経済面から)～

日時 2018年3月7日(水)17:00-20:00

会場 ホテルアウリーナ 2階 バーラウンジ ラフィーネ

主催 JAFS 法人賛助会

協力 大阪国際フォーラム

参加者 37名

内容 日台産業連携事情

講師 台北駐大阪経済文化辦事處 経済組 組長

(経済商務担当部長) 何 坤松(か こんしょう)氏

4. 第8回 法人賛助会世話人会

日時 2017年6月2日(金) 18:00～20:00

場所 北京料理 徐園

参加者 14名

内容 ミャンマーセミナー打ち合わせ

アジア社会科学院留学報告(柿島)

5. 第9回 法人賛助会世話人会

日時 2017年11月21日(火) 18:30～20:30

場所 レストラン ラルゴ (中之島フェスティバルタワー12階)

IV. 普及啓発事業

参加者 7名
内容 今後の法人賛助会の活動について

6. 第10回 法人賛助会世話人会
日時 2018年2月27日(火) 18:30~20:30
場所 讃岐路
参加者 7名
内容 日台交流プログラムについて

(7) 社員クラブ

長らく休止していた「社員クラブ」が2017年10月に復活。毎回、ゲストによる様々なテーマの卓話をはじめ、社員相互の交流と親睦の場、そして未会員が気軽に参加できる格好の機会として2017年度は2回開催した。

第1弾 社員クラブ
日時 2017年10月10日(火) 18:30~20:30
会場 Largo(ラルゴ) 中之島フェスティバルタワー12階
参加者 50名
卓話 大阪府府民文化部 国際交流長 播本 裕典氏
「観光だけじゃない国際都市 大阪」

第2弾 社員クラブ
日時 2018年1月29日(月) 18:30~20:30
会場 レストランカステロ ホテルアウィーナ1階
参加者 45名
卓話 ラジオパーソナリティ&コメンテーター 末広 真樹子氏
「誰かのお役に立てる幸せ」

(8) 関連プログラム／その他団体協力

◆(特活)関西 NGO 協議会

加盟し、理事として運営に関わった。各種催しに出席、協力活動を行った。特に、副代表理事として常任理事会に関わり、調整業務も協力を行っている。

理事会／常任理事会 基本2か月毎の出席
3月31日 関西 NGO 協議会設立30周年記念レセプション
CS ネットワークフォーラム参加

同時に以下の2項目に関しても関西 NGO 協議会の役割を担っている。

- ① NGO-外務省連携推進委員:関西の NGO と外務省の窓口の役目を担うと同時に東京での会議に出席。
- ② 関西 SDGsプラットフォーム運営委員:12/16 設立総会にてフォーラムスピーカー

◆(特活)関西国際交流団体協議会

- 1) 加盟し、監事として協力活動を行っている。
理事会参加／総会参加
- 2) ワン・ワールドフェスティバル 2017:実行委員構成団体
1993年より毎年大阪で開催、今年24回目を迎えた。関西の NGO、NPO、国際機関、企業などが参加し、国際協力・交流活動を幅広く紹介するとともに、参加者が地球規模の課題に対して行動するきっかけの場となることを目的としている。本会は実行委員会の一員として、活動紹介展示、民族料理屋台、企画プログラムにて参加協力した。
期 間:2018年2月3日(土)、4日(日)
場 所:北区民センター、扇町公園周辺
来場者:25,000名(2日間のべ人数)
主 催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

参加内容:NGO 活動紹介ブースにて来場者を対象に活動紹介と各種ボランティア募集の告知とアジアングッズの販売、民族料理屋台ブースでアジア料理の出店協力を行った。

◆公益財団法人自治体国際化協会

アドバイザーとして協力活動を行っている。

◆公益財団法人大阪府国際交流財団

評議員として評議員会出席。協力活動を行っている。

◆関西国際交流ボランティアネットワーク会議(KIV-NET)

加盟し、運営委員として協力活動を行っている。
4月26日 活動検討会議

◆(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)

正会員として加盟し、協力活動を行っている。「グローバルフェスタ JAPAN2016」は、国際協力をより身近なものに感じるとともに、国際協力の現状・必要性などについての理解と認識を深めることを目的としたイベント。「グローバルフェスタ」には2007年よりJAFS 関東が参加している。

1月 日 JANIC30周年記念イベントに参加
3月31日 JANIC 関西エリア正会員意見交換会 参加及び会場提供
そのほか、子ども支援事業の寄付金を得た。

◆認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)

NGO ユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。2017度は、熊本地震被災者支援の助成を受け、効果的な支援ができた。

◆近畿労働金庫 地域共生推進室

2017年
2018年1月25日ラジオカフェ Kyoto Happy NPO 出演協力

◆一般財団法人 H₂O サンタ

2017年6月28日~30日 H₂O サンタ NPO フェスティバル
2018年1月27日チャリティートークイベント
募金は、本会の井戸建設事業へと充てられた。

2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動や理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し地域の催しにも協力しながら活動をした。

- | | |
|---------|-----------------------|
| 第1エリア: | 大阪府北部、兵庫県東北部 |
| 第2エリア: | 大阪府東部 |
| 第3エリア: | 大阪市内 |
| 第4エリア: | 大阪府東南部 |
| 第5エリア: | 京都府、滋賀県 |
| 第6エリア: | 兵庫県(一部大阪近辺を除く) |
| 第7エリア: | 奈良県、東大阪市、八尾市、和歌山県、三重県 |
| 第8エリア: | 大阪府西南部 |
| 第9エリア: | 西日本 |
| 第10エリア: | 東日本 |
| 第11エリア: | 東海、北陸・甲信越等 |

IV. 普及啓発事業

(1) エリア幹事会・地区活動推進委員会

2017年度は、昨年に引き続き地域の役員(地区世話人)を中心に、エリア幹事会及び地区活動推進委員会を開き活動を進めていった。地区活動においては新たに「アジア友の会」の設立を推進した。

◆エリア幹事会 計5回 のべ56名が参加

定例会: 4月11日、4月15日、5月16日、6月20日、7月18日

◆会員拡大地域活動推進委員会 計9回 のべ164名が参加

定例会: 4月11日、5月30日、6月13日、9月9日、
10月7日、11月25日、11月30日、1月24日
3月9日

(2) 地区世話人一覧

エリア	地区	氏名
1	尼崎	天野澄子、黒谷侑子、竹内泰子
	池田	石原基義、勘山 悟、近藤秀子、近藤允伸
	吹田	江守 猛、杉原 貴、中西武雄
	高槻	佐々寿子、西川龍夫、榊田敏弘、川上礼子
	豊中	大谷利恵子
	箕面	平瀬勢丈
2	門真	友松千草
	四條畷	青木洋介、小柳二郎
	寝屋川	笠谷正博、黒木隼彦、菅原直樹、根津千枝子、 畠山ひろみ
	枚方	明見睦子、天野由紀代、佐々木実、船戸康夫、 虫明慧悟、吉田幸子
	守口	真田朱美、二野英子
3	なにわ東	稲垣三千穂、奥 眞里子、毛利 吉男、濱崎佳尚
	なにわ西	風早正夫、落合朋子、喜多富美、篠塚達朗、 福岡好嗣
	なにわ南	中西豊次、實 清隆、巽 正憲、 フェイガン 望
	なにわ北	豊田祥二
4	河内長野	今井利子、白井春夫、新谷百代、丸井和子
	藤井寺	森 わか子
	松原	橋本末子、六車勝三
	美原	田中千鶴子、中嶋啓子
	羽曳野	サルマ クルシュナ
	大阪狭山	藤間孝子
	河南町	橋本洋一
	富田林	沖田哲男、真嶋克成、春田希代子、渡辺治彦
5	宇治	櫻屋敷寛子、杉林則子、田中紀代三
	京都市	辻 賢二、菅 洋子、高田晃宏、大本和子、金井 英夫
	野洲	深田陽一
	八幡	福川 肅
6	三田	芝野照久、堀 正之
	西宮	岡田 昂、小谷牧子、斎藤公江、平山隆史
	神戸	鈴木誠也
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢

	芦屋	岩崎準一
7	生駒郡	林 昭宏
	生駒市	有山加代子、近藤真知子、山田いづみ、山田穂 積
	奈良市	サマン ペレラ、高以良泰治、東久保勝彦 福岡名津子、渡邊瑠璃子、野口明英
	東大阪	坂上やよひ、末永雅典、南野紀美子
	八尾	日下千代子、橋本隆
	田辺	小森茂之
8	新宮	瀧野秀二、中西 洋
	高石	佐藤満昭
9	堺	幾谷真規子、久保幸子、山本征八郎
	広島	宇田和博
10	東京	川崎隆二、長谷川雅子
11	愛知	壁谷桂子、清水三千夫

(3) 第1エリア

【尼崎】天野澄子、竹内泰子、黒谷侑子【池田】石原基義、勘山悟
近藤秀子、近藤允伸【吹田】中西武雄、杉原貴、江守猛【高槻】西
川龍夫、榊田敏弘、佐々寿子、川上礼子【箕面】平瀬勢丈【豊中】
大谷利恵子

- 5月5日 中山寺子供フェスティバル参加
場所:中山寺 参加33名
募金額 143,045 円
- 7月9日 セタまつり参加
場所:豊中駅前 参加13名
募金額 35,224 円
- 12月9日 アジアンチャリティフェスティバル参加
場所:大阪沖繩会館 参加5名
募金額:12,157 円
- 2018年
1月14日 第1エリア新年会開催
場所:霊松寺 参加27名
募金額:14,600 円

●地区会開催

豊中地区

- 11月3日 定例会もつとつとアジア知ろう「インド」
～なくそう貧困。命の水を！～
参加4名 場所:豊中国際交流センター

池田地区

- 11月23日 定例会もつとつとアジアを知ろう「インド」
～教育の平等を願って～
参加7名 場所:池田中央公民館
- 2018年
2月17日 定例会もつとつとアジアを知ろう「インドネシア」
～マングローブ植林ワーク報告～
参加8名 場所:池田中央公民館

吹田地区

- 6月21日 定例会 ～今後の地区の活動について～
参加5名 場所:吹田カレーリーフ
<フリーマーケット参加>

IV. 普及啓発事業

吹田地区では例会及びウォーク開催はじめ、新たな試みとして11月～2018年3月31日まで3回、吹田くるくるブラザフリーマーケットに参加した。インドの養鶏プロジェクトを支援する。

池田、吹田、豊中合同世話人会開催

9月28日 3地区合同で地区会の開催方法や海外プロジェクト報告会開催についての会議を開いた。
参加5名 場所:エトレ豊中

高槻・島本地区にて

2017年

6月4日 チャリティウォーク for ASIA はにたん元気！ウォーク
「卵の花に誘われて さあ初夏の玉川の里へ」
参加20名
6月12日 第1回 Home Party Hello!みなさんウエルカム
ネパールレストランタージマハルエベレストにて
参加14名
9月11日 第2回 Home Party 夏を乗り切るネパール料理教室
ネパールレストランタージマハルエベレストにて
参加16名
10月21日 第13回高槻 NPO 協働プラザにてパネル展示
11月12日 チャリティウォーク for ASIA はにたん元気！ウォーク
「高槻城主 高山右近の半生を歩く！」
参加14名

2018年

1月14日 JAFS 新年会 会場:高槻 霊松寺
参加45名(府立三島高校ドイツ人留学生1名)
第1エリアによるインド支援報告&アトラクション
3月17日 チャリティ for ASIA 隠れキリシタンシリーズ
特別講話「いま明かされる隠れキリシタンの謎」
高山右近研究家 久保田典彦 氏
&ぞうすいの会
参加30名 場所:高槻市クロスパル
3月24日 チャリティウォーク for ASIA 隠れキリシタンシリーズ
第2弾「隠れキリシタンの里・茨木千堤寺を巡る!!」
参加17名
<定例会>毎月第1月曜日(13:30～15:00)計7回開催
場所:高槻市クロスパル

(4) 第2エリア

【第2エリア合同】

2017年4月1日 第2エリア お花見懇親会
於:枚方市立楽寿荘 参加者:15名
※参加費の一部は JAFS へ一般寄附

<植林実行委員会 “JAFS 北河内 緑とふれあう会” >

会長:笠谷正博

2017年

4月8日	草取り	参加6名
4月22日	サツマイモの育苗床作り	参加6名
5月13日	(雨天のため中止)	
5月16日	【御殿山神社下草刈り】	参加6名
5月20日	草取り他	参加7名
5月27日	玉ねぎの収穫、畝作り他	参加10名
6月10日	サツマイモの植え付け、紫陽花の掘り起こし、 夏野菜周辺の草取り他	参加9名
6月11日	【御殿山神社紫陽花まつり】	参加7名

6月17日	ジャガイモ掘り他	参加8名
6月24日	野菜の収穫、草取り他	参加4名
7月8日	野菜の収穫、芋畑の草取り、枝豆の試食他	参加8名
7月15日	草取り他	参加8名
7月22日	葉物野菜の種まき、草取り他	参加9名
8月5日	草取り他	参加6名
8月19日	葉物野菜の収穫、草取り他	参加5名
9月9日	大根の種まき、無花果付近の草取り他	

9月23日	桜島大根の種まき、草取り他	参加8名
10月14日	大根の間引き、葉野菜の種まき他	参加7名
10月28日	(雨天のため中止)	
11月2日	芋掘り、耕耘・施肥	参加7名
11月11日	みかん狩り、玉ねぎの畝作り、玉ねぎ苗の植え付け	参加9名
11月23日	みかん狩り	参加8名
12月2日	みかん狩り、大根の収穫	参加16名(内子供4名)
12月6日	美山新そばツアー	参加6名
12月23日	みかんの収穫、大根の収穫、玉ねぎの追肥他	参加7名

2018年

1月13日	大根の収穫、草取り他	参加7名
1月27日	大根の収穫、耕耘・施肥、みかんの寒肥入れ、 玉ねぎの追い肥	参加7名
2月7日	【御殿山神社紫陽花寒肥入れ】	参加5名
2月10日	ジャガイモ用畝作り、大根の収穫、草取り他	参加7名
2月24日	ジャガイモ植え付け、大根の収穫、草取り他	参加6名
3月10日	ジャガイモ植え付け、大根の収穫、玉ねぎ畝の 草取り他	参加6名
3月24日	総会(枚方市市民会会議室)	参加9名
3月31日	桜島大根の収穫、草取り他	参加6名

※第2、第4土曜日の午前中を定例作業日とする。

その他当番制の水やり作業、必要に応じての農園臨時作業(▲で記載)、備品設置作業等、有り。

【守口】真田朱美、二野英子

2017年	桜まつり	チャリティー参加
4月1日(土)		
5月13日(土)	だんじり祭り	チャリティー参加
14日(日)		
5月27日(土)	橋波商店街100円市	チャリティー参加
6月7日(水)	定例会	
7月5日(水)	定例会	
7月29日(土)	橋波商店街 夜市チャリティー参加	
8月5日(土)	JAFS守口 親睦旅行	
～6日(日)		
9月6日(水)	定例会	
9月18日(祝)	大阪市北区中の島自転車ロードレース チャリティー参加	
10月8日(日)	橋波商店街 FM(フリーマーケット) チャリティー参加	
10月28日(土)	橋波商店街100円市	チャリティー参加
11月1日(水)	定例会	

IV. 普及啓発事業

11月5日(日) 市民祭りチャリティー参加
 11月11日(土) チビッツ祭りチャリティー参加
 12月6日(水) 定例会
 12月23日(土) JAFS守口 忘年会
 2018年
 1月3日(水) 定例会
 1月7日(日) JAFS守口 餅つき&新年会
 1月21日(日) 商工会議所 第8回大商業祭チャリティー参加
 2月7日(水) 定例会
 3月7日(日) 定例会
 3月11日(日) 橋波商店街FMチャリティー参加
 3月25日(日) 南小学校閉校式イベントチャリティー参加

【枚方】明見睦子、天野由紀代、佐々木実、船戸康夫、虫明慧悟、吉田幸子

5月28日 第11回枚方ティーサロン 参加26名
 「二人のインド滞在記」話:明見睦子、田中祥子
 場所:枚方市民会館別館3F第2会議室
 8月26~27日 枚方まつり 模擬店チャリティー参加
 場所:枚方市駅前岡東中央公園

2018年
 2月18日 ハッピーバルーンフェスティバル(協力参加)
 場所:寝屋川市立第五中学校
 3月4日 交野の酒蔵を訪ねるウォーク(枚方・寝屋川地区会合同企画) 参加23名 京阪交野市駅→住吉神社→代官屋敷北田邸→山野酒造(見学・講義)→織物神社(神社隣接公園で昼食)→JR津田駅
 3月24日 第12回枚方ティーサロン 参加17名「ネパール支援報告」話:熱田典子
 場所:枚方市民会館別館3F第1会議室
 ※地区世話人会 5月7日、1月26日、2月27日
 以上の活動よりネパールへ井戸1基を寄贈。

【寝屋川】笠谷正博、黒木隼彦、菅原直樹、根津千枝子、畠山ひろみ

4月1日 第2エリア花見の会 場所:枚方・楽寿荘
 5月14日 地区定例会 場所:市民活動センター
 7月2日 地区定例会 場所:市民活動センター
 8月6日 地区定例会 場所:市民活動センター
 9月10日 地区定例会 場所:市民活動センター
 10月15日 地区定例会 場所:市民活動センター
 10月22日 第47回ねやがわぞうすいの会(テーサロン)
 「子どもの貧困」日本とアジアの現状
 話:中川雄二・村上公彦
 場所:ふらっとねやがわ
 11月12日 市民活動センターふれあいフェスタ
 活動展示 場所:市民活動センター
 11月19日 地区定例会 場所:市民活動センター
 11月23日 ふらっとねやがわまつり 活動報告・活動展示
 場所:ふらっとねやがわ
 12月16日 ねやがわ多文化フェスタ チャリティー模擬店
 場所:アルカスホール
 2018年
 1月28日 地区定例会 場所:市民活動センター
 2月18日 ハッピー・バルーンフェスティバル
 チャリティー参加 場所:市立第5中学校

3月4日 枚方・寝屋川地区合同ウォーク「交野の酒蔵を訪ねる」ウォーク 場所:交野市
 3月11日 地区定例会 場所:市民活動センター
 以上の活動によりネパールへバイオガス2基を寄贈。

(5) 第3エリア

【大阪市なにわ東】毛利吉男、濱崎佳尚、稲垣三千穂、奥眞里子

2017年
 8月31日 なにわ東地区役員会 参加5名
 場所:JAFS
 11月1日 なにわ東地区会 昼食会 参加18名
 場所:大阪市旭区 WALT

【大阪市なにわ西】篠塚達朗、風早正夫、落合朋子、喜多富美、福岡好嗣、風早茂都子

2017年
 4月1日 まいど！大阪おもしろツアー 参加42名
 「春爛漫、千本桜の京街道と大川端を歩く」
 場所:大川橋界限
 5月2日 なにわ西地区例会 参加4名
 場所:JAFS
 5月3~5日 なにわ西地区中之島祭り出店 参加6名
 場所:中之島界限
 5月26日 なにわ西地区例会 参加4名
 場所:JAFS
 6月17日 まいど！大阪おもしろツアー 参加18名
 「不思議大阪七墓と謎の難波長柄豊崎宮を歩く」
 場所:阪急中津駅～梅田駅界限
 6月23日 なにわ西地区例会 参加6名
 場所:JAFS
 7月15日 なにわ西地区例会(はもパーティ) 参加19名 場所:JAFS
 7月27日 なにわ西地区例会 参加4名
 場所:JAFS
 9月21日 なにわ西地区例会
 場所:JAFS
 10月13日 なにわ西地区例会 参加4名
 場所:JAFS
 10月28日 おいで！関西ほのぼのツアー
 「京都太秦、謎の渡来人と映画のロマンを訪ねて」 参加22名
 場所:京都太秦界限
 11月17日 なにわ西地区例会 参加4名
 場所:JAFS
 11月18日 ばいど！大阪おもしろツアー
 「えっ、ここが？都心にねむる中国・能勢両街道の合流点をあぐる！」 参加13名
 場所:大阪曾根崎～十三界限
 12月15日 なにわ西地区例会 参加5名
 場所:JAFS
 2018年
 1月6日 まいど！大阪おもしろツアー
 「大阪七福神巡り」 参加28名
 1月17日 なにわ西地区例会
 場所:JAFS

IV. 普及啓発事業

【大阪市なにわ南】中西豊次、出口貴之、實清隆、巽 正憲

5月21日	アジアチャリティフェスティバル全体会議 参加3名 場所:JAFS
6月3日	住吉ウォーク 参加13名 場所:住吉大社 多文化共生セミナー 参加12名 場所:天王寺区民センター
9月9日	アジアユースサミット 参加2名
10月10日	なにわ地区会 場所:マルヤス水軍
10月27日	アジアチャリティフェスティバル緊急会議 場所:JAFS
11月1日	アジアチャリティフェスティバル実行委員会 場所:JAFS
11月3日	ナニワ大道ウォーク 参加11名
11月25日	秋 懇親 研修会 山水館
12月9日	アジアチャリティフェスティバル 参加400名 場所:沖縄会館
12月27日	アジアチャリティフェスティバル反省会 参加35名 場所:JAFS 5F

(6) 第4エリア

【河内長野・大阪狭山市】白井春夫、今井利子、藤間孝子、新谷百代、丸井和子

5月18日	役員会 参加6名
5月31日	世話人会 参加4名
6月15日	JAFS 河内長野地区 ぞうすいの会 参加12名
11月9日	役員会 参加6名 場所:モダカ
2018年	
1月20日	河内長野アジア友の会 発会式 記念公演:淀川キリスト教病院院長 渡辺直也氏 参加80名 場所:ラブリールホール
2月18日	河内長野アジア友の会 理事会 参加6名 場所:ノバティホール
2月25日	第18回ボランティア市民活動フェスティバル出展 場所:河内長野キックス
3月25日	第1回河内長野アジア友の会月例会 参加12名 場所:ノバティホール

【南河内】橋本末子、橋本洋一、森わか子、六車勝三、サルマ田中愛子

2017年	
5月13日	南河内地区会 JAFS 松原 年間計画 場所:インド料理店ブジャ
10月28日	異文化交流会「内モンゴル大草原の結婚式」 参加29名 場所:松原市総合福祉会館
11月17日	知事賞授賞(大阪府社会福祉大会) 長期に渡るボランティア活動の功績 場所:大阪国際交流センター 松原第三中学校区ヒューマンタウンフェスタ
11月19日	1年生と協働でネパール里子支援「フレンドサポート」 参加36名 場所:松原第三中学校
11月19日	松原第4中学校区フェスタ JAFS パネル展示、児童会活動(ネパール支援) 場所:松原第4中学校

12月10日 松原市ボランティアまつり パネル展示
場所:松原ゆめニティ

2018年

1月28日 国際協力&異文化交流 in 松原
「6ヶ国のお茶で交流、ウィグル文化紹介」
参加57名
場所:松原市総合福祉会館

3月24日 JAFS 松原地区会 2017年度まとめ
場所:田中邸

1月22日 国際協力&異文化交流パーティ in 松原
参加120名
場所:松原ゆめニティプラザ

3月24日 道明寺ウォーク&天満宮梅園
参加6名 場所:古市古墳群道明寺周辺

★広報活動(JAFS 松原ブログでイベント告知、活動報告を掲載)

【富田林】沖田哲男、真嶋克成、春田希代子、渡辺治彦

2017年	
4月29日	富田林地区ぞうすいの会 参加17名 場所:富田林 MAP カフェ
7月1日	富田林地区会 テニスとバーベキュー 参加20名 場所:富田林市藤沢台テニスコート
9月27日	富田林地区役員会 参加5名 場所:富田林 MAP カフェ
11月28日	富田林地区チャリティバザー 場所:滝谷不動
2018年	
1月13日	富田林地区会 金剛山登山 参加1名 場所:金剛山 富田林地区会 参加7名 場所:沖田哲男会員宅

(7) 第5エリア

【京都・宇治・野洲・八幡】菅洋子、高田晃宏、辻賢二、大本和子、金井英夫、福井えり、櫻屋敷寛子、杉林則子、田中紀代三、深田陽一、福川康

4月8日	京都地区会 アジアについて知る勉強会 『全盲の僕と音楽との出会い』 ゲスト:アドレイ キャン コンデス氏 場所:バザールカフェ
5月23日	フィリピン・スタディーツアー
～26日	場所:フィリピン
6月5日	京都地区会 場所:京都
7月15日	京都チャリティミニコンサート 『宵々山の夕べ アンサンブル・フロットのしらべにのせて』 場所:バザールカフェ
7月29日	第32回箕面まつり参加
30日	場所:箕面市
9月11日	京都地区例会 場所:京都
10月1日	京都フリーマーケット参加 場所:梅小路公園
10月23日	アジアについて知る勉強会 『フィリピン 子どもの現状について』

IV. 普及啓発事業

ゲスト:デニスYバトイ氏 場所:洛南教会

- 12月5日 京都地区例会 場所:洛南教会
 12月9日 アジアンチャリティフェスティバル参加
 場所:沖縄会館
- 2018年
 1月15日 京都地区例会&新年会
 場所:洛南教会
- 2月9日 宇治地区活動相談会 場所:宇治教会
 2月22日 京都地区例会 場所:洛南教会
 3月10日 世界の竹中真 チャリティピアノコンサート
 場所:新島会館
 3月19日 京都地区例会 場所:洛南教会

(8) 第6エリア

【西宮】岡田昂、平山隆史、齋藤公江、栗山聡子

- 4月22日 ふれあいアフタヌーンティーの会
 参加9名 場所:カトリック夙川教会
- 4月29日 活動パネル展示とバザー参加
 場所:西宮中央教会 ふれあいマーケット
- 6月24日 ふれあいアフタヌーンティーの会
 参加15名 場所:カトリック夙川教会
- 8月26日 ふれあいアフタヌーンティーの会
 参加15名 場所:カトリック夙川教会
- 2018年
 2月25日 西宮国際交流デーに参加
 活動パネル展示
 場所:西宮フレンテ
 地区ミーティング 計3回
 4月8日、5月15日、6月17日
 場所:カトリック夙川教会

2017年度はこれまで地区会として積み立ててきたカンボジアに井戸一基を送ることができました。

【芦屋・神戸】鈴木誠也、岩崎準一、戸田恭子、田尻尚之

- 7月15日 コウベナゴミセミナー 参加20名
 スピーカー中谷吉弘さん
 場所:シェアリングカフェ コウベ ナゴミ
- 9月9日 コウベナゴミセミナー インド編 参加13名
 ゲストスピーカー ナゼマ寅巴里さん
 場所:シェアリングカフェ コウベ ナゴミ
- 10月14日 秋空縁日に参加
 場所:芦屋 木口記念会館
- 11月11日 コウベナゴミセミナー ネパール編
 参加10名
 ゲストスピーカー アチアリア パルカスさん
 場所:シェアリングカフェ コウベ ナゴミ
 地区ミーティング 計4回
 4月19日、5月25日、8月5日、1月27日
 場所:シェアリングカフェ コウベ ナゴミ

【姫路】森 梢、荒川鉄也、中尾和子

2017年度はこれまで地区会として積み立ててきたネパールに井戸一基を送ることができました。

(9) 第7エリア

【奈良・生駒・東大阪市・八尾市・新宮市】高以良泰治、渡邊瑠璃

子、サマンペレラ、東久保勝彦、福岡名津子、山田いづみ、山田穂積、有山加代子、近藤真知子、林昭宏、末永雅典、坂上やよい、南野紀美子、日下千代子、橋本隆、龍野秀二、中西洋

2017年

- 4月9日 「桜を愛でる会」 参加18名
 場所:東大阪 枚岡神社周辺
- 5月13日 第1回熊野塾 参加15名
 14日 場所:和歌山県新宮市
- 5月30日 生駒ぞうすいの会 参加9名
 場所:JAFS 生駒センターギャラリーE.R.I
- 6月12日 「はたるを愛でる会」参加23名
 場所:東大阪市 瓢箪山
- 6月12日 新宮友の会の発足
- 7月4日 第7エリアぞうすいの会 参加10名
 場所:JAFS 生駒センターギャラリーE.R.I
- 7月6日 生駒どんどこまつり説明会 参加3名
 場所:生駒市市役所
- 7月22日 第2回 熊野塾 参加11名
 23日 場所:和歌山県新宮市
- 7月22日 新宮地区会
 場所:和歌山県新宮市
- 7月28日 第7エリア地区会 参加5名
 場所:JAFS 生駒センターギャラリーE.R.I
- 8月5日 生駒どんどこ祭り パネル展示&出店
 場所:生駒健民グランド
- 9月15日 第7エリアアフタヌーンティ 参加18名
 場所:生駒たけまるホール
- 11月4日 地区会 参加10名
 場所:生駒市 山田会員邸
- 11月15日 生駒ぞうすいの会 参加8名
 場所:生駒市軽井沢公民館
- 12月7日 チャリティライブ生駒実行委員会 参加7名
 場所:生駒市山田邸
- 12月9日 第2回アジアンチャリティフェスティバル参加
 場所:大正区 大阪沖縄会館

2018年

- 2月6日 第3回 熊野塾(お燈祭り) 参加10名
 7日 場所:和歌山県新宮市
- 2月11日 竹送りウォークソング 参加8名
 場所:奈良市二月堂
- 3月4日 第3回チャリティーライブ生駒 参加242名
 反省会 参加35名
 場所:生駒市セイセイビル ホール
- 毎週金曜日 アイビー歌声サロン 場所:生駒たけまるホール
- 毎月1回 水曜日 E.R.I.歌声サロン 場所:JAFS 生駒センターギャラリーE.R.I
- 毎月不定期土曜日 ウチタネ歌声サロン 場所:うちたね

(10) 第8エリア

【堺市・高石市・田辺市】幾谷真規子、久保幸子、佐藤満昭

- 7月17日 高石地区
 第9回サマーギターチャリティコンサート
 参加135名
 場所:堺市北野田

2018年

- 1月2日 家原寺 新年街頭募金活動
 ~3日 場所:家原寺

IV. 普及啓発事業

1月8日 第19回新春チャリティ小品展支援
～25日 ネパール井戸建設他2項目支援
場所ギャラリーいろはに

(11) 第9、10エリア

【関東活動委員会(首都圏)】石田雅昭、岩田芳晴、川崎隆二、小島学、高岸泰子、森山涼子、原京、端無勝、佐藤理香、武田明沙香、河合典子、山本隆、長谷川雅子、田中壽美子

湯川副会長のご好意により、「JAFS 関東活動ひろば」が開設された。一部会員で今後の活動について話し合いをもち、当面は、月に一度くらいのペースで集まり、今後の活動について話し合う機会を持ち、その際に、活動の輪をひろげるべく、現在のアジアの話をお聞きする機会をつくっていきましょうということになった。

～私達の取り組み～パダトラ小学校の子どもたちの就学支援～

インド山岳地帯で暮すアディヴァンと呼ばれる先住民たちは、身分制度としてのカースト外の更に下層に位置付けられ、永く社会において差別されてきた。こうした境遇の子ども達もが、学校で学び、将来は職を得て自立できるように、現地のNGOとJAFSが協力して、日印友好学園「パダトラ小学校」が設立された。先住民の子ら70人が学んでいる。

JAFS 関東はアジア里親の会を通じて、継続した支援を行なう。プロジェクト支援のためにイベントを通じた資金集めを行うとともに、JAFSの広報や会員親睦なども積極的に行った。

2017年

6月14日 六義園巣鴨チャリティーウォーク(10名)
場所: 六義園、染井霊園、巣鴨地蔵通り
六義園でお弁当を広げた後は、ソメイヨシノの古里・染井霊園へ出発→おばあちゃんの原宿として親しまれる「巣鴨地蔵通り」→買い物を楽しむコース。染井霊園(二葉亭四迷や高村光太郎・智恵子夫妻、東洋のナイチンゲールと言われた「ローダスカ・ワイリック」さんの墓碑巡りを行なった)

7月8日 JAFS 関東活動ひろばオープニングパーティ
場所: JAFS 関東活動ひろば@銀座
参加 約30名

9月13日 JAFS 関東 研修会
場所: JAFS 関東会員ひろば@銀座
「エネルギー溢れるアセアン諸国」
お話: 徳永誠氏(JAFS 会員)

9月30日 グローバルフェスタ参加
～10月1日 場所: お台場・センタープロムナード公園
チャリティー参加及び展示ブースにて JAFS の活動紹介、水汲み体験、アジアグッズ販売。パダトラ小学校へのメッセージカードに記入くださった方の写真を JAFS の Facebook に掲載した。

10月7日 横浜フェスタ見学(5名)
2018 年度の横浜フェスタ参加検討のための視察

10月22日 AFS 関東 研修会&交流会(11名)
場所: JAFS 関東会員ひろば@銀座
「インド先住民における女性迫害の因習と取り組み」 Dr. Dilip Barsagad 氏
(JAFS インド提携団体 SPAR 代表)
JAFS 関東活動委員会(10名)

場所: JAFS 関東会員ひろば@銀座
12月16日 JAFS 関東の年間活動、役割の確認と活動委員長との交代が行なわれた。
12月23日 ワンフェスフォーユース(大阪)参加(2名)
場所: 大阪 YMCA

2018年

1月20日 JAFS 関東活動委員会(7名)
場所: JAFS 関東会員ひろば@銀座
2月3日 新年会(11名)
場所: JAFS 関東会員ひろば@銀座
3月3日 竹中真 CHARITY JAZZ PIANO CONCERT
場所: 日本基督教団 久我山教会
ジャズピアニスト竹中真さんの演奏と、後半は昨年に続き人気女優・甲斐まり恵さんとのコラボを、皆さんが堪能した演奏会だった。
来場者 50名以上。

●広報活動報告

JAFS 関東ブログを管理運営。イベント告知や活動状況を発信。
JAFS Facebook ページに、年間を通じ随時活動状況を発信。
Facebook での交流の場「JAFS 活動連絡室」を運営。

3. 広報

(1) アジアネット

アジア各地で様々な支援活動を展開している本会の事業を、年4回発行の会報「アジアネット」誌面で紹介した。会員や寄付者などの支援者に「アジアネット」を送付するとともに、新たに本会を知る人を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペースに向けても閲覧用に送付した。

《アジアネット発行実績:

130・131・132号 6,000部、133号 5,500部》

◆130号 2017年7月発行

- 表紙写真 茅を刈り背負って運ぶネパールの女性
- 巻頭言 パンダが縁 広く伝えたい
- 特集 自立模索する南アジアの女性
- 2016年の活動報告／2017年の実施予定
貧困対策、環境、水、子ども、国際交流、罹災者支援、サイクル・エイド、国内での普及啓発
- 2017年度 社員総会報告
- 海外からの報告 ネパール水道パイプライン
- 井戸寄贈報告
- フィリピンの島で植林ワークキャンプ
- 新・The 社会貢献 法人紹介
- JAFS プラザ 国内の活動
- 熊本地震から1年過ぎて…
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 環境コラム、編集後記

◆131号 2017年10月発行

- 表紙写真 アジアユースサミットのグループ討論
- 巻頭言 アジアの経済と教育に貢献
- 特集 第5回アジア・ユースサミット
- 海外からの報告
スリランカの水害被災地に笑顔／ネパールへ布ナプキンをつくって贈る／インドネシア 津波の後にマング

IV. 普及啓発事業

ローブ育て 13 年

- 自立へ歩むインドの女性
- 井戸寄贈報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- 熊本地震から 1 年半
- 新・The 社会貢献 法人紹介
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 環境コラム、編集後記

◆132 号 2018 年 1 月発行

- 表紙写真 京都美山「かやぶきの里」を訪れるアジア国際ネットワークセミナーの参加者
- 巻頭言 私民から市民へ 地区活動に思う
- 特集 アジア国際ネットワークセミナー
- 海外からの報告
インドの学校教育プログラム／AFS スリランカ部会が発足／地域と人々支えるルソン島の竹林／ネパールに JAFS の拠点事務所／ネパールに根を張り復興支援
- 熊本地震から 1 年半
- 井戸寄贈報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- パプアニューギニアで人間回帰を思う
- 新・The 社会貢献 法人紹介
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 環境コラム、編集後記

◆133 号 2018 年 4 月発行

- 表紙写真 マングローブの苗を手渡しリレー
- 巻頭言 40 周年記念 映画「セカミズ」
- 特集 経済発展の陰で模索するインドネシア
- 学び「続ける」カンボジアの里子たち
- カンボジア 2 小学校の校舎建設にも協力
- ネパールの人々の食生活を見守って
- インドの無医村に病院ができた
- JAFS からのお祝い・お知らせ
- 井戸寄贈報告
- 「忘れない」優しさこそ…熊本地震から 2 年
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 新・The 社会貢献 法人紹介
- 環境コラム、編集後記



第 130 号



第 132 号

第 131 号



第 133 号

(2) ホームページ／フェイスブック

本会のイベント情報やニュースなどを随時更新し発信した。
 <ホームページ> <http://jafs.or.jp>
 <フェイスブック> <http://www.facebook.com/JAFS.NGO>

4. プロジェクト支援 (ファミリーグループ)

(1) ぞうすいの会

(山崎桃、風早茂都子)

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味をかねている。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康を見直すとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に井戸などを贈り、衛生的な水の供給を行ってきた。毎月 1 回 (年間 11 回※8月休み)開催で、アジア協会アジア友の会事務局から各国でのプロジェクトについての現状を聞きながら、季節の香り高い雑炊を頂いている。継続することの大切さをあらためて実感でき、今後も、会員のみなさまの深いご理解と温かいご支援を得ながら、活動が続けていきたい。

4 月 11 日	351 回「インドコスモニクタン 20 周年記念報告」 田中壽美子 参加 20 名
5 月 9 日	352 回「フィリピン パロンバネス島の植林プロジェクト報告」岡本佳子 参加 17 名
6 月 6 日	353 回「フィリピン ASI 研修報告」 柿島裕 参加 20 名
7 月 12 日	354 回「カンボジアの現状」 横山浩平 参加 18 名
9 月 12 日	355 回「第 5 回ユースサミット報告」 横山浩平 参加 10 名
10 月 10 日	356 回「熊本地震益城町復興支援活動報告」永井博記 参加 12 名
11 月 14 日	357 回「第 27 回アジア国際ネットワークセミナー報告」参加 13 名
12 月 12 日	358 回「アジアンチャリティフェスティバル報告」 有山京子 参加 13 名
1 月 9 日	359 回「新年、JAFS の成り立ち」 村上公彦 参加 13 名
2 月 13 日	360 回「インドネシア バンダアチエワークキャ

Ⅳ. 普及啓発事業

ンブ報告」永井博記 参加 14 名
3 月 13 日 361 回「取り残された人々」ネパール
熱田典子 参加 17 名

(2) アジア井戸ばたサロン

(代表 山崎 桃)

『1990年「WINA2000」アジア国際女性会議』が開催された。これを機にアジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動をはじめた。小さな力でも積み重ねると大きな成果を生み出すということを合い言葉に、活動が続いている。サロンに集まるメンバーも新メンバーが加わり更に充実し、本年度も一歩一歩着実に歩み、手作り工芸品の製作など、おおいに成果をあげた。作品の種類や点数も増加したので、各種イベントなどでの利用を願っているが、積極的な申し出も増え、各地に作品を広めていただいていることに感謝している。目的達成のために1992年4月に設立された「水がめ基金」から、本年度も、「JAFS里親の会」に例年どおり支援を果たした。

<活動>

●ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作

毎週火曜日午後1時～3時

・箸袋、季節のカード、香袋など。

●各種文化交流会

1 2017年7月17日

・作品出品:「堺市ギターサマーコンサート」

2 2018年3月27日

・見学会:「高取町屋のひなめぐり」と子嶋寺参拝

(3) スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 船戸康夫)

スリランカ現地提携団体 NGO「サルボダヤ」との絆を深め、農村開発運動を支援し活動の輪を広げることが目的とする。スリランカを知り、楽しむイベント・講座等を開催や、活動支援のためバザー等に出展し、様々なボランティア活動をおこなっている。今年度は農村開発活動とともに井戸1基の建設を支援した。

4 月 22 日 総会 場所:JAFS 会議室
4 月 29 日 春の JAFS チャリティバザール出展
場所:大東市
6 月 17 日 例会 場所:JAFS 会議室
7 月 28 日 第 24 回スリランカ講座 於:コロンボ
『スリランカ料理を楽しむ会』
元気になるスパイスで暑い夏を乗り切ろう』
講師:ラックスマン フェルナンド氏
8 月 26,27 日 泉大津イベント 模擬店参加
9 月 2,3, 10 日 場所:泉大津フェニックス
10 月 5 日 例会 場所:JAFS 会議室
10 月 16 日 AFS スリランカメンバー大阪案内・交流会
場所:大阪市
11 月 5 日 秋の JAFS チャリティバザール出展
場所:大東市
11 月 10 日 例会 場所:JAFS 会議室
12 月 9 日 アジアンチャリティフェスティバル 出展

場所:沖縄会館
2 月 3,4 日 ワンワールドフェスティバル出展
場所:扇町公園
2 月 24 日 第 25 回スリランカ講座 場所:JAFS 会議室
『何故あなたは存在するのか』
～お釈迦様の教えから学ぶ』
ゲスト:ニラーニ 盛岡氏
3 月 11 日 スリランカ料理教室 場所:クレオ大阪西
ゲスト:ナディーシャ氏

(4) 日印友好学園支援会

(支援会会長 柏木道子) 支援会メンバー:10 名

2017年度も日印友好学園コスモニケタンの運営を引き続き支援したと同時に運営の自立を目指して、学校の収入源となる設備の拡充に協力した。机、イスの導入。スマートクラス(化学の実験などを映像化し、理解を深めるためのクラス)の設置費用を支援しスマートクラスが開設された。また、生徒の学力ギャップを緩和するために、成績が悪化している生徒や転入生のためのサマーコースをハイスクール、プライマリーの生徒を対象として開講した。科目としては皆が苦手な理科、算数、英語に特化したものとなっている。

コスモニケタン学園は生徒の頑張り先生との長年の行き届いた指導により、州政府が実施する中等学校卒業認定試験(SSLIC)においては、ビジャプーラ地区では毎年トップの成績を取り、ついに2015年は開校以来初めて全員が合格。新聞にも大きく報じられた。ただしその翌年の2016年にテストの方式が変更された上に、受験生が増えたこととテレビの取材などにより、生徒が試験当日、極端に緊張してしまったために、合格率が急落し翌年の昨年、2017年度はこの10年で最低の合格率に落ちてしまった。74人の受験者中不合格者が14人であった反面、平均60点以上をとったファーストクラスの比率はここ数年で最もよく、なぜか受験生の2分化がみられるようになってきた。受験者数のこの2年の大幅増加が原因と思われる。2018年度の改善が期待される。

(5) JAFSネパールへのかけ橋

(代表 岡田光浩 書記 渡辺治彦/長 克宣)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFSのネパールでの活動の支援を目的とする。活動のテーマは、「ネパールの子供たちの支援」。2003年度より、冬季ワークキャンプ(バイオガス建設ワークキャンプ)の自主活動を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。原則として、毎月1回(第2土曜日17時～)例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。また一昨年4月25日に発生したネパール大地震で被災した子供たちのために文房具などの支援協力の呼びかけを引き続き実施。今年度のプロジェクト支援は、シンドパルチョーク郡メラムチ村の小学校のトイレ建設費用の補填協力、AYS及びネットワークセミナー支援及びネパールの参加者の費用一部支援を行った。また、村の女性支援活動として、物資作成や現地でのセミナー開催を支援。また、継続的支援として、環境プログラムの教材作成や、里親の会を通して、ピトゥリ村の元里子で身体障害をもつフルマヤさんの自立支援を実施している。

2017 年

4 月 7 日 例会
5 月 13 日 例会
6 月 17 日 例会
7 月 15 日 例会

IV. 普及啓発事業

8月12日	例会
8月16日～23日	アジア・ユースサミットの運営(食事等)協力
8月24日	ネパ橋・同窓会(古いメンバーにも参加して)
8月26日	枚方祭りチャリティ参加
8月27日	枚方祭りチャリティ参加
9月22日	例会
10月17日	アジアネットワークセミナーの運営(食事等)協力
10月20日	枚方多文化フェスティバル準備、 ※翌日のフェスティバル自体は天候不順にて中止
10月21日	例会 兼 AFS-Nepal パダムさんとネパールの仲間を囲んでの懇親会
11月2日	東大阪国際交流フェスティバル準備
11月3日	東大阪国際交流フェスティバル参加
11月12日	例会
11月16日	熊本震災応援(クトゥンバ&竹中誠 チャリティーコンサート)ツアーの参加、運営協力
11月26日	天満橋ドーンセンターでの、クトゥンバ、竹中誠・清水利香 チャリティーコンサート運営協力
12月2日～3日	徳島・祖谷(日本のネパールといわれる地区)研修ツアー
12月16日	寝屋川多文化フェスティバルチャリティ出店 その後例会
2018年	
1月13日	例会・新年会
2月10日	例会・新年会
2月18日	寝屋川バルーンフェスタ参加
3月10日	例会

*1) ネパールからの招待バンド

(6) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動を行っている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解することと、その活動の中で、必要とされる支援を行っていく事を目的としている。飲食店出店や料理を通じた文化交流プログラム等を企画し、PAONとしてJAFSの海外プロジェクト支援、特に安全な飲料水の支援を目標に活動している。今までにスリランカ、ラオス、ミャンマー、カンボジア、バングラデシュ、フィリピンへ6基の井戸を贈ることができた。

8月26,27日	泉大津イベント 模擬店参加
9月2,3,10日	場所: 泉大津フェニックス
2月3,4日	ワンワールドフェスティバル出展 場所: 扇町公園

(7) JAFSオアシス会(中国教育医療支援会)

(代表 青木美千代)

オアシス会はアジアの中に“理解と協力と連帯”の輪を拡げるといふJAFS基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。

シルクロードを通じて日本にもたらされたものを「文化交流」により見出し、日本文化の原点を身近に感じることで、私達の日常に根

付いている文化を再認識し、それぞれが培ってきた伝統文化や精神を次の世代にバトンタッチできるよう、アジアの一員として未来に向けた活動を行う。

2017年

4月27日	例会	場所: ムカーム
8月1日	アジア家庭料理教室	場所: クレオ大阪西 ～中国新疆ウイグル自治区編～協力
6月8日	例会	場所: ムカーム
6月21日	AFSメンバーを迎えて交流会	場所: パザパ
8月27,28日	泉大津イベント 模擬店参加	
9月2,3,10日		場所: 泉大津フェニックス
12月21日	例会	場所: ムカーム

(8) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は、専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育英資金(奨学金等)を支給するための支援会である。2017年度は、フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースに本会会員の柿島裕氏1名の奨学を行った。

(9) ネパール子ども夢基金

ネパールのこどもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通じた成長を目指す子どもたちの教育支援。会員として支援者を募ると共に、ネパールにて8月と12月末実施の子ども環境セミナーを実施の支援を行った。

(10) ネパール地域医療支援会

(担当理事: 小原純子副会長)

ネパールの地域医療向上及び母子保健向上の支援活動を行ってきたスクエ支援会とチョータラ支援会を統合。ネパール農村エリアの医療向上プロジェクトをサポートする支援会。

今年度は、山間地の女性たちの生理用布パッドを手作りで作る活動を引き続き実施し、約100名の女子生徒達に配布した。またその為のテキスト作りに取り組んでい有る。また支援金のために引き続きブルトツプ回収を行っている。

(11) アジア未来塾

アジア未来塾は、“One Asia Community without poverty”を目指し、アジア人がお互いに協力する輪を拡げるという理念に基づき、地域研修交流活動“アジアアカデミー”の一環として2010年10月に設立されました。アジア未来塾は、アジアと日本と世界の関わり方を考える「アジア市民の会」であり、在関西のアジア人の仲間との交流を図り、アジア社会への貢献を図ることを目的としています。

第1回 4月23日(日)14:00-16:30(通算第43回)

参加者 8名

講師: アビエーションインターナショナルジャパン(株)

ジェネラルマネージャー 小川モモウ氏

テーマ: ミャンマーについて

第2回 5月28日(日)14:30-16:30(通算第44回)

IV. 普及啓発事業

参加者 6 名

講師: 神戸学院大学博士課程 メハビ・ハッサン・カーン氏
テーマ: バングラデシュの文化・社会等について聞く

第 3 回 8 月 27 日(日)14:30-17:30 (通算第 45 回)

参加者 13 名

講師: 同志社大学博士課程 ドーア・ミグダッド氏

テーマ: Challenge s and Success in Gaza

パレスチナ・ガザにおける現情勢下での取り組みを
市民の視点から伝える

第 8 回 9 月 24 日(日)14:30-17:30 (通算第 46 回)

参加者 8 名

講師: 同志社大学法学部政治学科 3 年 ジョン・インソ氏

テーマ: 韓国人の視点から見る北朝鮮の核問題

2018 年

第 1 回 1 月 28 日(日)14:30-17:30 (通算第 47 回)

参加者 8 名

講師: 京都大学大学院総合生存学館(思修館)3 年生

孫 燁(そん よう)氏

テーマ: 中国の社会的課題とその対応について

ー環境問題を手がかりにー

第 2 回 2 月 25 日 14:30-17:30 (通算第 48 回)

参加者 10 名

テーマ: 留学生コミュニティ間の相互連携促進を考える

ー留学生とアルバイトの問題についてー

(12) サイクル・エイド支援会

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与したり、環境にやさしい貴重な移動手段として、地域の福祉環境改善のために再生自転車を有効利用している。自転車を通じた国際交流の絆を深める目的を進めていくためにサイクル・エイド支援会を設立。様々なイベントでの広報活動や自転車を輸送するための協力を募っている。

(13) JAFS パーラト会

(代表 巽 正憲)

月 1 回第 3 火曜に例会を開催し、インド国歌を歌い、やさしいヒンディー語を勉強しインドの歴史、文化、最近のインドについて学び、インドについての理解を深めていきます、国際ネットワークセミナー参加のインド人の大阪案内や歓迎会も開きました。インド映画やイベントについての情報交換も行っています。8 月に設立 2 周年総会を行い、会員数も二桁になりました。

例会: 4 月 18 日、5 月 16 日、6 月 20 日、7 月 18 日、
8 月 19 日、9 月 19 日、10 月 17 日、11 月 21 日、
12 月 19 日、1 月 16 日、2 月 20 日、3 月 20 日
のべ 141 名が参加

(14) JAFS 歌声サロン

(代表 有山京子)

ピアニスト有山京子の伴奏をバックに、好きな歌を歌い、日頃のストレスを発散しながら、国際貢献をする自主活動グループ。2016

年度から、活動を開始し、参加費の一部をインド子ども教育支援(インド、ナグプール県のチャイルドアカデミー)、アジアフレンドシップ夢基金へ寄付を行なっています。

例会: 4 月 11 日、5 月 9 日、6 月 13 日、7 月 25 日、
9 月 12 日、10 月 24 日、11 月 14 日、12 月 12 日、
3 月 13 日 のべ 45 名が参加

(15) 英会話クラブ

(代表 有山京子)

2016 年度より英会話クラブを開設。初心者から上級者までのクラスがあります。初心者には日本人のしの先生やインド人のミーナ先生がおられます。しの先生は状況に応じて英語を使い分ける方法を、ミーナ先生は初中級者にはテキストブックを使って親切に指導。上級者には日常英会話からビジネス英会話まで、また個人レッスンもあります。会費の一部はインド子ども教育支援に寄付します。

例会: 4 月 13 日、5 月 11 日、5 月 18 日、25 日、6 月 8 日
6 月 22 日、6 月 29 日、7 月 13 日、7 月 27 日、
8 月 24 日、9 月 14 日、28 日、10 月 5 日、10 月 12 日、
11 月 2 日、11 月 9 日、12 月 21 日、1 月 11 日
2 月 1 日、3 月 8 日
のべ 94 名が参加

(16) 旅人(たびんちゅ)

(代表 有山京子)

旅の好きなものが集まり、折々の季節を楽しみながらチャリティ企画で旅をしています。会費の一部はアジアフレンドシップ夢基金に寄付しました。

2017 年

12 月 13 日 牡蠣ツアー 参加 9 名
場所: 岡山県日生漁港

2018 年

1 月 5 日 白馬スキーツアー 参加 4 名
～8 日 場所: 長野県白馬村

3 月 21 日 牡蠣ツアー 参加 4 名
場所: 岡山県日生漁港

(17) アジアンホームパーティ (バングラデシュ)

(代表 柿島 裕)

地域における多文化共生推進活動の一環として開催。在日 20 年以上になるバングラデシュ人ムハマッド・ジャケル氏の自宅のある府営住宅(堺市)にて、バングラデシュの方々との交流会を行った。

- ① 第 1 回 9 月 3 日(日)13:00-15:00
バングラデシュの行事「犠牲祭」に合わせて在日のバングラデシュ人(家族・留学生)約 40 名と会食を交えての交流を行った。JAFS 会員 8 名参加
- ② 第 2 回 2018 年 3 月 25 日(日)13:00-15:00
ムハマッド・ジャケル氏のご子息の誕生パーティをバングラデシュ人の方々約 40 名と共に祝った。JAFS 会員 2 名参加。

IV. 普及啓発事業

5. 関連市民活動

(1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 山竹継男)

事業期間:2017年4月1日～2018年3月31日

事業の内容:美山楽舎を中心とした活動を行った。美山楽舎の維持管理費が収入を上回り今後課題を残す形となった。水道光熱費・保険料・修繕維持費の合算が150,804円と保有財産活用料47,000円を大きく上回っている。地元との交流も年ごとに深まりつつあるが、JAFSの活動も含め今後なお一層、協調・交流を深めていかなければならない。

(1) 自然環境保全事業

内容:残していくべき自然(京都府南丹市美山町の「美山楽舎」の活用や新淀川河川敷を実際に訪れ市民レベルでの自然環境保全を実施した。

- 5月28日 美山紅芍薬観察会
- 7月2日 第14回べっ甲シジミ採りとEM菌投入
- 3月25日～28日 第6回美山土と水と緑の自然学校開催

(2) 歴史的環境の保全

内容:大阪大空襲にも焼け残った奇跡の町、昭和が色濃く残る空堀商店街を見学し、歴史的建造物や街並み保存を学んだ。

- 2月6日 奈良

(3) 保有・管理財産活用事業

内容:京都府南丹市に保有する「美山楽舎」の土地・建物を一般に有料で貸し出し保存すべき歴史的建物(古民家)に触れることによりナショナル・トラスト運動に理解を深めて頂いた。

(4) 農林漁業生産支援事業

内容:農村地域の行事に積極的に参加し、地元住民との交流を図り、農業生産の実態や農業生産支援について考える機会を得た。

- 10月28日 奥庵堂祭りに参加
- 11月3日 美山ワンディーマーチ(降雨災害で中止)
- 2月4日 美山神谷雪祭り協賛

(2) グリーンベイ OSAKA

(代表 萩尾千里)

堺第7-3区共生の森において、以下の通り、「グリーンベイ森を育てる会(草刈り会)」と「第11回グリーンベイ植樹会」を開催しました。

(1) グリーンベイ森を育てる会(草刈り会)

日 時:5月28日 9:30～13:30
天 気:好天 参加102名

(2) 第11回グリーンベイ植樹会

日 時:11月26日 9:30～13:30
天 気:好天 参加123名

植付面積:1,300㎡

植樹本数:728本(14種)

植樹種:

(落葉樹)ケヤキ、ムクノキ、ヤマザクラ、オニグルミ、クヌギ、コナラ、エゴノキ、

(常緑樹)ヤマモモ、ムネノキ、アキグミ、クロマツ、クスノキ
ナワシログミ、ウバメガシ

(3) 社団法人国土緑化推進機構からの助成金

当法人のグリーンベイ植樹会の「森を育てる活動」に対して、社団法人国土緑化推進機構が助成金1,900,000円を交付した。

(3) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表:萩尾千里、大阪グループ代表幹事:橋口高明)

本会の国際協力フィードバック事業の一環として、本会会員有志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬されかつ信頼される国(社会)づくり」。日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的市民の会を目指している。発足は2006年12月。

<フォーラム活動(会員議会/政策提言)>

1. 奉仕活動(各種ボランティア活動へ参画)
2. 自己啓発活動(自己研修・鍛錬など)
3. 健康増進活動

定例会:毎月第一日曜日 午後2:00～5:00

場 所:JAFS会議室

(都合により日程、場所に変更有)

<2017年定例会>

4月16日 第88回 場所:JAFS 参加4名

『憲法改正の焦点と課題～第九条に限られない諸問題』

5月28日 第89回 場所:JAFS 参加4名

『憲法改正』は今年か、来年しかできない！？』

6月25日 第90回 場所:JAFS 参加6名

『憲法改正』は・・・制限時間前の軍配がかえるかもしれない。いまなら衆参両院で改憲に前向きな勢力が3分の2以上を占める「この70年間で最高の政治状況」でだ。』

(読売新聞 H29/4/25)

7月30日 第91回 場所:JAFS 参加7名

『憲法改正論はこの先100年遠ざかる。もう止めにしよう！』

9月3日 第92回 場所:JAFS 参加5名

『空威張りの国-北朝鮮、空威張りの独裁国家-中国は、共に消滅！』

10月15日 第93回 場所:JAFS 参加7名

『憲法改正の行方は 不明？遠退く？良し？』

11月26日 第94回 場所:JAFS 参加7名

『総選挙で改憲勢力が勝利～はずみをつけられるか！』

『従軍慰安婦、南京大虐殺の真相は…？』

12月24日 第95回 場所:JAFS 参加7名

考えよう！『従軍慰安婦は本当におったのか』

『南京市民の大虐殺事件とは何のこと』

<2018年定例会>

1月28日 第96回 場所:JAFS 参加6名

「憲法」「外交」「防衛」「領土」「領海」

太平の世にこそ議論を尽くそう！

2月25日 第97回 場所:JAFS 参加6名

「憲法解釈」「北朝鮮問題」

政策の行方(浮き沈みする憲法改正議論)

3月25日 第98回 場所:JAFS 参加5名

「本会の運営方針について」

「百回記念行事をどうするか」

「憲法改正～特に九条の改廃如何？」

Ⅳ. 普及啓発事業



「アジア・チャリティ・フェスティバル」にてマレーシア舞踊



新入会員歓迎会



JR 住道駅前での「JAFS チャリティ バザール」



新年街頭募金(堺市の家原寺にて)



JAFS 新年会(高槻市の霊松寺にて)



河内長野アジア友の会(JAFS 河内長野) 発会式

IV. 普及啓発事業



国際協力&異文化交流 in 松原



第7エリアの御竹送りウォークソン



富田林寺内町ひなめぐりウォーク



第3回チャリティライブ生駒



西宮地区会 西宮国際交流デー参加



なにわ西地区 2018 戌年！開運おおさか七福神めぐりツアー

IV. 普及啓発事業



池田地区会 もっともっとアジアを知ろう



バーラト会 チャイルドアカデミー支援交流会



吹田くるくるプラザフリーマーケット



第2エリア 緑とふれあう会



JAFS関東会員ひろば オープニングパーティ



第5エリア 子ども支援のためのチャリティコンサート

IV. 普及啓発事業



アジアンホームパーティ(バングラデシュ) 大阪府営住宅にて



アジア家庭料理教室



スリランカサルボダヤ友の会 第25回スリランカ講座



寝屋川地区会 市民活動センターにて活動の展示と広報活動



JAFS ネパールへのかけ橋 徳島スタディーツアー



社員クラブ ～末広真樹子さんをゲストスピーカーに向かえて～

Ⅳ. 普及啓発事業

Ⅳ－B. 環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

（１）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を3泊4日で巡り、自然体験をした。本年度も引き続き、新宮市からの協力を得て、例年、東日本大震災の被災地名取市から子供達を招待されていますが、今年は台風接近の為に期間を短縮しての開校となり、名取市からの参加も取りやめとなり、合計90名の参加となりました。

開催趣旨

大自然の中での生活体験を通じ、自然の成り立ちや不思議を知り、人間を含む生態系の営みや自然を大切にすることを学び、次代を担う世代として、より豊かな心を持たせることを目的とする。

行事名 第34回土と水と緑の学校
実施期間 2017年8月9日(水)～12日(土)の3泊4日
(本部開設期間8月5日(金)～8月13日(土))
実施場所 和歌山県新宮市 高田地区一帯
および、那智勝浦宇久井
本部:高田公民館
主催者名 新宮市
公益社団法人 アジア協会アジア友の会(JAFS)
一般財団法人 新熊野体験研修協会
協力者名 近畿労働金庫、大阪帝塚山ライオンズクラブ
後援者名 大阪府教育委員会、大阪市教育委員会
和歌山県教育委員会、新宮市教育委員会
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団
社会福祉法人 読売光と愛の事業団大阪支部
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

人数 参加者数(小学3年～中学3年) 90名
(大阪側42名・新宮側48名(名取市より参加はありません))
ジュニアリーダー数(高校生) 3名
リーダー数(大学生・社会人) 14名
本部ボランティア・関係者・スタッフ数 38名
講師数 9名

土の日

午前中は、栄養度の高い腐葉土を山から掘り、その中に住む、昆虫やその他の微生物の観察。色やにおいなど様々な特徴から土について学習した。午後からは、班ごとにクラフトや、自然体験ゲーム、川遊び、成果発表の準備などを行った。

水の日

午前中は、水中にすむ生物の観察から水の大切さを学んだ。何十種類にもおよぶ川の生き物の採集し、それらの特性、特徴を観察した。午後からは、カヌー体験で川の流れを知り、川で泳ぐ体験により全身で水を感じた。

緑の日

午前中は、緑の働きや人々とのかわり、あずま屋から一ノ滝まで歩くことを通して学んだ。ハイキングの中で、草木や熊野地方

特有の植物に触れ、緑の役割を学んだ。午後からは、テントでの宿泊を体験し、かまどでの火起こしやエコ自炊やドラム缶風呂を体験した。

海の日

午前中は、海に生きる多様な生物を採集し、生態を観察した。海での磯観察では多種多様な生物に触れた。午後からは、船でホエール・ウォッチングに出かけ、クジラの生態を学び、地域での取り組みについて考えた。

心の日

スライド写真を通じて、世界の自然やアジアの国々の生活の様子に思いをはせた。同世代の子どもたちの生活や、アジアにおける水不足の現状、食糧事情、環境などを学んだ。

（２）美山 土と水と緑の自然学校

本プログラムの特徴は、「農村と都市の交流」である。自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通し、森林の活用、身近にある自然・文化と生活のつながりなど、自然を大切にすることの意味を学び、自然や周りの人々など多くのものに支えられていること、そのつながりを実感することで他者や自然を思いやる心を育てることを目的としている。

開催趣旨

「農村と都市の交流」をテーマに、単なる自然体験ではなく、農村に暮らす人々との交流を通して身近にある自然と生活のつながりなどを学ぶことで、自然を大切にすることと仲間を思いやる気持ちを育てる。

行事名 第6回 美山「土と水と緑の自然学校」
実施期間 2018年3月25日(日)～28日(水)
実施場所 京都府南丹市美山町大内地区
主催者名 公益社団法人アジア協会アジア友の会(JAFS)
共催者名 大内地区農村都市交流実行委員
関西ナショナルトラスト協会
後援 京都新聞
人数 参加者数(小学3年生～中学3年生)11名
ジュニアリーダー数(高校生)3名
リーダー数(大学生・社会人)5名
本部ボランティア・関係者・スタッフ数・約25名

内容 ポイントラリー、白尾山登山、クラフト、大内・荒倉水路探索、キャンプファイア、餅つき、地元の話など。

毎年恒例のプログラムとして定着してきた本プログラムであり、地元の人たちもボランティアとして、プログラムを支え、尽力している。参加者も一定化しており、夏と土と水と緑の学校の友達と再会した子どもたちが、新宮、大阪、京都から集まり、地元の素材を活かしたプログラムを満喫している。本事業は、6年目を迎え、本会や美山においても恒例のプログラムとして定着してきた。

これまで、毎年参加してきたタイのメイジョウ大学の学生が来日できなかったことは、農村、都市、国際的交流を目指していた本プログラムとして、またこのような国際的交流を楽しみにしていた地元

IV. 普及啓発事業

の人たちにとっても残念なことであった。しかしながら、このプログラムの参加者集めを始め毎年試行錯誤しながらつくってきたことにより、美山においても信頼を得ることができている。

今後は、美山と大阪、新宮との相互交流などを実践し、さらなる交流を深め、都市間だけでなく国際交流にもチャレンジしていきたいと考えている。

また、限界集落の中で、自分たちに何ができ、どうしたらその課題を解消できるかなど、例年にもましてこの問題にチャレンジしていきたいと思う。

(3) 各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFS の海外ネットワーク(インド、カンボジア、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ)を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている(大阪、吹田、寝屋川・枚方)。

◆国際グリーンスカウト大阪◆

(代表:永井大介)

定例会議 祝日を除く毎週木曜日に実施

活動内容 年間を通して「エコキャンプ」、京都府南丹市美山町にて農業体験を実施、集落支援活動を通じて、青少年環境教育活動及び海外支援活動

活動報告

5月14日 南丹市美山町大内区で田植え、7B-Life 参加
8月9日～12日 第34回土と水と緑の学校に参加(新宮市高田)
11月3日 美山ふるさとウォーキングツアー(降雨にて中止)
12月2日～3日 新宮ウィンターキャンプ(新宮市内)実施
12月10日 Xmas 会実施(JAFS 事務所にて)
2018年2月3日 美山「神谷ふるさと雪祭り」参加、協力
3月25日～28日 第6回美山「土と水と緑の自然学校」に参加

◆国際グリーンスカウト吹田◆

(主なメンバー:杉原貴、雨森清忠、服部博、濱野和也、早川直彦、越智久美子)

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003年より毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を行っている。2003年より、毎年7月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っている。2017年も引き続き、月一回の川清掃、夏のキャンプ、年数回吹田内でキャンプを行った。また、HPを下記に変更した。

<https://guwasuto.jimdo.com/>

<糸田川清掃、環境保全活動>

毎月一回、基本的に第一土曜日に30分ほど実施。

参加人数は平均6～8人。

実施日: 4月1日、5月13日、6月3日、7月1日、8月5日、

9月2日、10月14日、11月11日、12月2日、
1月13日、2月3日、3月3日

<ぐわすとキャンプ>

9月30日～10月1日(吹田市自然体験交流センター)

◆国際グリーンスカウト寝屋川・枚方◆

2006年11月に結成。今年度も引き続き第2エリア植林活動「北河内緑とふれあう会」に参加。行動を同じくした。



修了証を胸に (第34回土と水と緑の学校)



クラフトの授業でスプーン作りを学ぶ
(第6回 美山「土と水と緑の自然学校」)

V. 運営管理

V. 運営管理

V-A. 社員総会

公益社団法人アジア協会アジア友の会第6回社員総会を下記の通り開催した。定款第16条の定めにより萩尾会長が議長となり議事を進行した。現在の社員数229名の内、出席社員数160名（内書面評決者及び評決委任者108名を含む）であり、過半数に達し、総会は適法に成立していることを宣した。

日 時：2017年6月10日（土） 午後14時～15時45分

会 場：大阪科学技術センター 8階中ホール

議 案：Ⅰ. 決議事項

第1号議案『定款変更承認』の件

第2号議案『監事選任』の件

第3号議案『2017年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、同附属明細書及び財産目録承認』の件

Ⅱ. 報告事項

① 2016年度事業報告並びに同附属明細書について

② 2017年度事業計画書について

③ 2017年度収支予算書について

上記の決議事項に関しては、異議なく承認された。

V-B. 役員一覧

役 職	氏 名	経 歴
会 長	萩尾 千里	大阪国際フォーラム会長
理 事 長	田中 久雄	(株) VENISON 代表取締役
副 会 長	小原 純子	(一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 前理事長、現名誉顧問
	湯川 剛	(株) OSG コーポレーション 代表取締役会長・CEO
専務理事 事務局長	村上 公彦	日本基督教団 寝屋川教会 牧師（本会創設者）
常務理事	富松 英二	元 三菱電機（株）通信機製作所 開発管理担当部長
常任理事	池田 直樹	あすなろ法律事務所 弁護士
	井上 勇一	日本キリスト教団洛南教会 牧師
	上野 孝一	寝屋川十字の園 施設長
	大倉 達也	(株) 大倉設計事務所 代表取締役
	沖田 文明	(特活) 関西ナショナル・トラスト協会 副代表
	齋藤 公代	元 大阪北生協機関紙むつみ・タウン誌ライブタウン編集長
	櫻井 紘哉	元 三和銀行管財部長
	西田 貞之	(有) 西田興産 代表取締役
	新田 香織	近畿大学総合社会学部 教授
	法花 敏郎	元 朝日ビルディング社長

V. 運営管理

	吉田 俊朗	元 ユニチカ（株）監査役
理 事	熱田 親憲	元 大阪経済法科大学 地域総合研究所客員教授
	石川 悦治	石川会計事務所 税理士
	桑村 壽子	天王寺英数学院 理事長
	坂口 久代	関西イタリア語文化センター 代表
	篠原 勝弘	公益財団法人 CIESF 副理事長 元駐カンボジア特命全権大使
	土屋 菊男	元 関西学院高等部 教諭
	寺西 浩章	(宗) 家原寺 住職
	橋口 高明	(株) エイメックストレイディング 社長
	福澤 邦治	パナソニックグループ労働組合連合会 副中央執行委員長
	藤原 正昭	行岡保健衛生学園 顧問
	山田 英男	大阪カンボジア王国名誉領事館名誉領事、山田不動産(株)代表取締役
	米田 明正	(株) グローアップ 代表取締役
監 事	出口 貴之	(株) 宝屋 代表取締役
	毛利 吉男	(株) カステロ 代表取締役
	山下 泰之	東邦金属(株)常勤監査役

(2018年3月31日現在)

V. 運営管理

本会の事業・活動は、理事会及び各常置委員会によって管理・運営されている。2017年度における理事会、各委員会の開催状況は以下の通り。

V-C. 理事会

(議長:萩尾千里会長)

理事会: 5月、6月、9月、12月、3月 (計5回開催)

原則として第4火曜日に実施。

V-D. 常置委員会

I. 公益目的事業 I 開発支援事業

2017年度は、開発支援事業の進捗状況の確認、課題提示、プロジェクト評価、報告などを実施。2018年度新規事業の審議を実施。

委員長:大倉達也理事

副委員長:米田明正理事

<事業内容>

1. 水事業
2. 子ども事業
3. 貧困対策事業
4. 環境事業
5. サイクル・エイド事業

開催日:6月、9月、11月、1月、3月 計5回実施。

II. 公益目的事業 II 国際交流事業

国際交流事業の進捗状況の確認、報告などを中心に行なった。各事業ごとに実行委員会を持ち、円滑にプログラム運営を行なうことができた。

委員長:西田貞之理事

委員:坂口久代理事、藤原正昭理事

<事業内容>

1. 人材交流・育成事業
2. ネットワーク推進事業

開催日:7月、9月、11月 計3回実施

10月には、第27回アジア国際ネットワークセミナーを日本で実施した。

III. 公益目的事業 III 生活支援事業

2017年度は、熊本地震被災者支援事業、ネパール地震被災者支援、スリランカ水害被災者支援などの決定事項や進捗状況について協議した。

委員長:小原純子副会長

副委員長:橋口高明理事

<事業内容>

1. 熊本地震被災者支援
2. ネパール地震被災者支援
3. スリランカ水害被災者支援
4. 東日本大震災支援事業

開催日 4月、9月、2月、3月(計4回実施)

IV. 公益目的事業IV 国際理解・啓発活動事業

事業項目別に担当理事を中心に委員会が開催された。

総括委員長:村上公彦事務局長

<事業内容>

1. 会員拡大・地域活動推進委員会(齋ア幹事、地区世話人さんを中心に開催。
地域活動推進委員会を開催し、地区世話人と共に活動していく仲間の輪を広げていった。
エリア幹事会:4月、5月、6月、7月
地域活動推進委員会:4月、5月、6月、9月、10月、11月、1月、3月
2. 広報企画委員会(法花敏郎委員長)
アジアネット編集を中心に開催。
開催月:4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、2018年1月、2月、3月
3. 事業委員会(沖田文明委員長)
住道バザー、土と水と緑の学校、熊野塾、アジア・チャリティ・フェスティバルを開催
委員会:5月、6月、9月、10月、11月、3月 計6回実施
4. 国際文化交流委員会(新田香織委員長)
アジアを身近に感じ理解し、活動を応援する人々の育成を目指し支援の輪を広げるを中心に活動。
開催月:6月、3月
5. 全国ネットワーク委員会(井上勇一委員長)
全国の活動拠点作りのための人材発掘に努力した。
開催月:5月、9月、11月、2月

V. 法人管理部門

委員長:櫻井紘哉理事

1. 総務兼法人賛助会担当 櫻井紘哉理事
 2. 財務担当 上野孝一理事
 3. 法務担当 池田直樹理事
 4. 庶務担当委員 吉田俊朗理事
 5. ガバナンス委員 富松英二常務理事
 6. 業務統括・事務局 村上公彦専務理事
- 開催月:原則として8月を除き毎月開催。計11回。

【事業報告の付属明細書】

2017年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上

【事業報告の付属明細書】

2017 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上